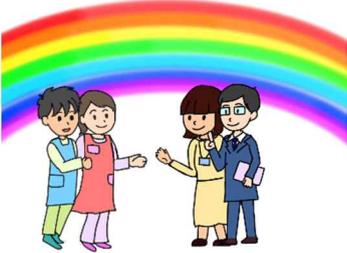


いばらきっ子の育ちをつなぐ



架け橋カリキュラム作成ガイドブック



令和6年10月
茨城県教育委員会

はじめに

茨城県では、平成30年度から、各市町村の幼児教育アドバイザー、各小学校の保幼小接続コーディネーター、幼児教育施設の園内リーダーに保幼小接続の中心となっただき、市町村や小学校区の保幼小接続に向けた連携体制を構築してまいりました。そして、「茨城県保幼小接続カリキュラム」をモデルとして策定し、各市町村や各幼児教育施設・小学校等においても接続カリキュラム（アプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを含む）が策定されてきました。また、各市町村や小学校区においては、保育者や小学校教員の合同研修会、相互参観等が開催され、取組の充実が図られております。

さらに、令和4年3月に、文部科学省においては、「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」が策定されました。幼児教育と小学校教育の「架け橋期」の保育・教育の充実に向けて、子どもに関わる大人が連携・協働する体制を構築し、架け橋期のカリキュラムを作成・実施する取組が、全国で推進されております。

そこで、国の方向性や本県のこれまでの取組の成果を踏まえ、接続カリキュラムを改善し、保育・教育のさらなる充実を図っていくことが重要となってきました。そのため、それぞれの市町村等の実態に合わせて創意工夫のもと「架け橋カリキュラム」作成・実施を進めていく手掛かりとなるよう、今年度「茨城県架け橋カリキュラム検討会」を開催し、本資料を作成いたしました。

なお、本資料は茨城県教育委員会のポータルサイト「家庭教育応援ナビ」（研修資料・教材：就学前教育）に掲載しており、グループワークのワークシート、参観メモ、カリキュラム作成様式も用意していますので、ダウンロードしてカスタマイズすることが可能です。広くご活用いただき、各市町村や小学校区等の取組の充実が図られますことを期待しております。

結びになりますが、本資料の作成にあたり、多大なご尽力をいただきました検討会委員の皆様、心から感謝を申し上げます。

令和6年10月

茨城県教育庁総務企画部生涯学習課
就学前教育・家庭教育推進室長

和田 秀彦



「架け橋」で何をつなぐのか？

幼児期の自発的な遊びを中心とした生活の中で育まれた、やり抜く力や協調性、自信などの「非認知能力」は、変化する社会を生きていく中で重要な力です。幼児期の「夢中になって遊び込む中での育ちや学び」を小学校以降の「主体的・対話的で深い学び」へとつないでいくことが大切です。

また、「育みたい資質・能力」の三つの柱は、幼児教育から高等学校まで続けて育んでいくものとして各要領・指針等に共通して示されています。そして、幼児教育で資質・能力が十分に育まれると修了前の子どもに現れる姿（方向目標）として、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があり、小学校以降でも続けて育んでいく必要があります。

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な「架け橋期」をつなぐカリキュラム作成の取組により、0～18歳までの発達の連続性に配慮し、子どもに関わる全ての大人が連携・協働をしていくきっかけとしていきましょう。

幼児教育と小学校以降の教育は、 「育みたい資質・能力」でつながっています！ ～小学校は0（ゼロ）からのスタートではありません～



「架け橋カリキュラム」とは？

「架け橋期」とは、5歳児から1年生終了までの2年間です。（0～18歳までの連続性に配慮）

「架け橋期のカリキュラム」のことを、本資料では、「架け橋カリキュラム」と呼びます。

「架け橋カリキュラム」は、**保育者と小学校教員等が連携・協働し、【共通の視点】**（育てたい子どもの姿・遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わり等）をもち、意見交換しながら作成していきます。

「架け橋カリキュラム」作成・実施の取組を通じて、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて連携し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の子どもの多様性に配慮した上で、全ての子どもに**学びや生活の基盤**を育むことを目指すものです。

参考：令和4年3月文部科学省「幼保小の架け橋プログラム※の実施に向けての手引き(初版)」、「参考資料(初版)」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm

※幼保小…本資料では、県のこれまでの取組を継承し「保幼小」としています。

※架け橋プログラム…架け橋期の子どもにかかわる大人が連携・協働することを目指す「体制作り」と、「架け橋カリキュラム作成」の両方を合わせた取組を指します。



今までと何が違う？

市町村、幼児教育施設・小学校のこれまでの取組により、県内の各市町村で接続カリキュラム（アプローチカリキュラムやスタートカリキュラム等を含む）は作成・実施されるようになってきました。

今後は、「カリキュラムの理念が共通していない」「取組が交流や入学時の学校適応でとどまっている」「施設類型の違いを超えた共通性が見えにくい」等の課題を踏まえ、さらに取組を充実させていく必要があります。

今まで	これから
入学前後の数か月	2年間 (5歳児～1年生)
入学時の学校適応中心 園や小学校単位で作成 が多い	学びの連続 地域単位で作成 (市町村や学校区等)



令和〇年度〇〇市（〇〇小学校区）架け橋カリキュラム（イメージ）【ワークと作成順の例】

RO.O.O現在

【共通の視点】として考えられる項目例	5歳児												1学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿	ワーク5【共通の視点】育てたい子どもの姿																							
育てたい資質・能力	<p>知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)</p> <p>遊びを通しての総合的な指導</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> <p>思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p>方向目標</p> <p>幼児期の終わりにまでに育ってほしい姿 ○健康な心と体 ○自立心 ○協同性 ○道徳性・規範意識の芽生え ○社会生活との関わり ○思考力の芽生え ○自然との関わり・生命尊重 ○数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ○言葉による伝え合い ○豊かな感性と表現</p> <p>続けて育んでいく</p>												<p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p>知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化</p> <p>思考力・判断力・表現力等 (理解していること、できていることをどう使うか)</p>											
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと (写真の下の【 】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例)	<p>写真</p> <p>【事例〇】</p> <p>写真</p> <p>【事例〇】</p> <p>写真</p> <p>【事例〇】</p> <p>学びの芽生え ○○○○○○</p>												<p>写真</p> <p>【事例〇】</p> <p>写真</p> <p>【事例〇】</p> <p>自覚的な学び ○○○○ ○○○○</p>											
指導上の配慮事項	<p>ワーク6【共通の視点】大切にしたいこと ～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生のかかわりについて考える～</p> <p>ワーク7・8【共通の視点】指導上の配慮事項 ～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう/就学に向けて具体的な支援を共有しよう～</p>																							
環境の構成																								
先生のかかわり	<p><フェーズ1>ワーク1～4等で保幼小の相互理解を図るとともに、気付きや意見を記録として残しておき、架け橋カリキュラム作成の参考とする</p> <p>交流会</p>												<p>ワーク10 スタートカリキュラムを見直そう</p> <p><フェーズ4>改善・発展のため、子どもの学びや生活を具体的にイメージして話し合う場を設定する</p> <p>交流会</p>											
子ども同士	交流会												交流会											
先生同士	<p>ワーク2(授業参観) ワーク3・4(保育参観)</p> <p>ワーク1(研修会)</p> <p>情報交換(入学先小学校と) 小学校スタートカリキュラム検討会</p>												<p>ワーク2(授業参観) ワーク4(保育参観)</p> <p>ワーク1(研修会)</p>											
家庭との連携	ワーク9 保護者と連携しよう																							
家庭教育の視点から																								
保護者との連携ツール	おたより・HP・ポートフォリオ・ドキュメンテーション 等 保育への参加 アンケート												おたより・HP 参観懇談会 アンケート											

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ～0歳から18歳までの発達の連続性を見通して～)

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム



【共通の視点】として考えられる項目例	5歳児												1学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿	【例】なかまとワクワク やってみたいをやる子 ～一人で、みんなとでも～																							
育てたい資質・能力	<p>知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)</p> <p>思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p>遊びを通しての総合的な指導</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> <p>方向目標</p>												<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康な心と体 自立心 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 <p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p>知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p>思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることをどう使うか)</p> <p>「確かな学力」「健やかな心」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化</p> <p>続けて育んでいく</p>											
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと (写真の下の【】それぞれの園や学校で展開される遊び・活動例)	<p>【例】</p> <p>夢中になって遊び込む</p> <p>小学校への期待が膨らむ</p> <p>【宇宙船を作ろうよ！:事例イ】</p> <p>【運動会のシンボルだ！:事例イ】</p> <p>【小学校でワクワクチャレンジ:事例オ】</p> <p>安心して自己発揮する</p> <p>夢中になって学び込む</p> <p>【学校生活のスムーズなスタート:事例キ】</p> <p>【生活科学校たんけん:事例ク】</p> <p>学びの芽生え（自発的な遊びを中心とした生活の中で学ぶ）</p> <p>繰り返し 探究的に遊び込む</p> <p>興味をもつ</p> <p>心と体を開放</p> <p>やってみたいをやる</p> <p>試す</p> <p>人との関わりを楽しむ</p> <p>協同的に</p> <p>挑戦する</p> <p>体験する</p> <p>工夫する</p> <p>伝え合う</p> <p>共通の目的に向かって</p> <p>見立てる</p> <p>好きなことを形にする</p> <p>イメージを共有する</p> <p>自分で見つける</p> <p>使えるものがわかる</p> <p>ふりかえる</p>												<p>主体的・対話的で深い学び</p> <p>探究的な学びへ</p> <p>わくわくを感じる</p> <p>疑問をもつ</p> <p>自分で決めた方法でできる</p> <p>楽しい</p> <p>聞いてみたい</p> <p>調べる</p> <p>比べる</p> <p>試す</p> <p>相手意識</p> <p>安心</p> <p>もっと知りたい</p> <p>情報を取り入れる</p> <p>工夫する</p> <p>知らせたい</p> <p>伝え合う</p> <p>思いや願いをもつ</p> <p>活動や体験をする</p> <p>感じる・考える</p> <p>表現する・行為する</p> <p>振り返る</p> <p>気付きの深まり</p> <p>気付く</p>											
指導上の配慮事項	<p>環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な素材から材料を選ぶことができるように準備する。 ○やりたいことに没頭できる場や時間を十分に確保する。 <p>先生の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イメージを言語化し、共有できるよう、会話をつないだり、保育者が言葉に置き換えていく。 ○保育者も失敗を楽しむ姿を見せながら、何度も試したり、粘り強く取組んだりする姿を認めていく。 												<p>環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝の活動では、幼児期の経験を踏まえて、好きな活動を選べるように設定したり、自由に使える材料を用意したりする。 ○新しい友達や教師とのふれあいの時間を大切に、幼児期に経験した遊び（音楽に合わせて体を動かす等）を取り入れる。 ○一人のつぶやきが全体の気付きにつながるように、発見したことなどを伝え合う場を設定し、会話をつないでいく。 <p>先生の関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の活動に自信がもてるよう、子どものイメージに寄り添い、見守る。 ○自分の活動に向かってつくりあげる楽しさを味わえるように、対話を通してイメージを広げたり、膨らませたりする。 ○合時的・関連的な指導や弾力的な時間割の工夫により、子どもの思いや願いを大切にしながら教科や活動をつなぐ。 ○実物を見る、人に聞くなどの調べ方や、ICTの活用、劇化などの伝え方を、多様な方法から選択できるように支援する。 											
交流・連携計画	<p>子ども同士</p> <p>【例】</p> <p>交流会(参考:事例ア・オ)</p>												<p>子ども同士</p> <p>【例】</p> <p>交流会(参考:事例ア・オ)</p>											
家庭との連携	<p>家庭教育の視点から</p> <p>【例】</p> <p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有(育てたい子どもの姿を語り合う場を)</p>												<p>家庭教育の視点から</p> <p>【例】</p> <p>「架け橋期」の教育について、保護者と共有する機会を設定する(保護者参加型のワークの実施を)</p>											
保護者との連携ツール	<p>クラスだより・HP</p> <p>【参考:事例キ】育ちのアルバム</p> <p>保育への参加</p> <p>就学時健康診断(家庭教育学級)</p> <p>参考:「子育てアドバイザー」</p> <p>入学説明会</p> <p>懇談会</p> <p>子育てマンガ・動画</p>												<p>おたより・HP</p> <p>家庭教育学級や懇談会等</p> <p>参観懇談会</p> <p>教育相談</p> <p>アンケート</p> <p>懇談会</p>											

参考:ワーク5【共通の視点】育てたい子どもの姿共に育てたい子どもの姿を話し合い、決定する

参考:ワーク6【共通の視点】大切にしたいこと写真や動画等で子どもの姿を共有しながら作成すると分かりやすい「環境の構成」「先生のかかわり」についても一緒に考えていくとよい

参考:ワーク7・8【共通の視点】指導上の配慮事項ワーク6や、ワーク7、8を踏まえ、カリキュラムに反映する内容を決定

参考:ワーク10 スタートカリキュラムを見直そう保育者と教員で入学時の環境や合科的な授業を考える

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ~0歳から18歳までの発達の一貫性を見通して~)

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

架け橋カリキュラム作成のプロセス



「架け橋カリキュラム」作成において大切なことは、保育者と小学校教員で子どもの姿をもとに語り合える体制を作り、保育・教育の充実に向けて実践・検証しながら、協議を通して改善していくことです。それぞれの保育・教育の違いを互いに尊重し理解し合いながら、共に育てていく子どもの姿を真ん中に、共通に大切にしたいことを語り合い、できるところから進めていきましょう。

今、自分の市町村（または近隣の小学校と幼児教育施設）は、どのフェーズの取組をしているかをチェックしながら、接続の充実に向かうように取り組んでみましょう。次のフェーズに取り組む際のヒントとして、ワークや事例を参考にしてください。

	フェーズの判断のイメージ	ワーク（１～１０）	事例（ア～ケ）
フェーズ1 基盤作り	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の交流の実施 管理職や担任間での関係作り 生活の流れや活動の共有（相互参観） 	<ol style="list-style-type: none"> 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しよう★☆ 視点をもって参観しよう（授業参観）★ 子どもの学びを捉えよう①（園内の保育参観）★ 子どもの学びを捉えよう②（保育参観）★☆ 	ア 子ども同士の交流から （参考資料） 茨城の幼児教育第47号（校内研修）
フェーズ2 検討・開発	<ul style="list-style-type: none"> 【共通の視点】をもとに保幼小で意見交換し、架け橋カリキュラムを検討 	<ol style="list-style-type: none"> 【共通の視点】育てたい子どもの姿★ 【共通の視点】大切にしたいこと★ ～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わり～ 7、8【共通の視点】指導上の配慮事項★ 9 保護者と連携しよう 	
フェーズ3 実施・検証	各幼児教育施設や小学校での実施・検証 <ul style="list-style-type: none"> 教育課程や指導計画等の見直し 実践事例の収集・共有 		イ～エ、カ （幼）夢中になって遊び込む （参考資料） 5歳児の遊びと環境の構成 オ（幼）子ども同士の交流から キ（小）安心して自己発揮する ク（小）夢中になって学び込む ケ（幼）家庭との連携
フェーズ4 改善・発展 サイクルの定着	持続的・発展的な架け橋カリキュラム <ul style="list-style-type: none"> PDCAサイクルの確立 子どもの実態に応じて、各園・小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに 	<ol style="list-style-type: none"> 10 スタートカリキュラムを見直そう～保育者と小学校教員で一緒に合科的な授業を考える～ 	（参考資料） 1年生のスタートカリキュラム 公開授業の取組より

★はワークシートまたは参観メモあり、☆はワークの参考資料あり

フェーズ1 ～基盤作り～



✓	Check! (実施しているものにチェック)	参考
<input type="checkbox"/>	園長・校長間及び担任間の関係作り	
<input type="checkbox"/>	子どもの交流の実施	事例ア
<input type="checkbox"/>	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有	ワーク1
<input type="checkbox"/>	園や小学校での子どもの生活の流れや活動について共有 (相互参観等)	ワーク2～4 (参考資料) 校内研修の例
<input type="checkbox"/>	<開発会議※1> 構成員の選定と目指す方向性の共有	
<input type="checkbox"/>	<開発会議> 地域の実態の把握	
<input type="checkbox"/>	架け橋プログラム(体制作り・架け橋カリキュラム作り)の 取組への理解と合意形成	手引き※2

※1…架け橋カリキュラムについて話し合うための会議

※2…文部科学省 HP「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き」

★実施のポイント

○近隣の小学校等・幼児教育施設と、顔の見える関係を作り、つながる

まず、管理職同士で連携について合意形成を図るとスムーズです。

具体的な計画は、連携窓口となる方(小学校:保幼小接続コーディネーター等、幼児教育施設:園内リーダー等)、または市町村の幼児教育アドバイザー等に相談してみましょう。

○市町村全体で共通理解しながら取り組む

市町村が中心となり小学校区等の連携体制作りをサポートし、保幼小連携協議会や合同研修会、架け橋カリキュラムの開発会議等、話し合う場を設定すると、スムーズな連携につながりやすいです。保幼小で管轄課が異なる場合は、連携を図り実施しましょう。

○相互参観後に実施する「架け橋タイム」が効果的

保育者と小学校教員が、意見交換の場をもつことを本資料では「架け橋タイム」と呼んでいます。特に、相互参観後に行うことがおすすめです。実感を伴った相互理解は、その後のカリキュラム作成の基盤となります。

保育所
5歳児（5月）

子ども同士の交流から ～中休み時間に校庭で遊ぼう～

健康な心と体

社会生活との関わり

コロナ禍の影響で交流が一旦途絶え、保幼小接続を進めるための現在の自園と小学校はフェーズ1（段階）に該当している。そこで、子ども同士が自発的に関わる姿をきっかけに、生活の中に交流が日常化されるように、まずは小学校の中休み時間を活用し、自然な年長児と低学年との交流を図った。**【この時期のねらい】**校庭で小学生と自由に遊び、小学校に親しみを感じる。

展開

興味・安心・挑戦



「高いけど、ここまで登れた！」
「すごい！私もまだそこまで進んだことないよ」（小学生）

自然な関わり



「あなたが1年生で入学する時には、私は6年生にいるよ」（小学生）
「そしたらまた一緒に遊べるね」



「ぼくが案内してあげる、おいで」（小学生）
「うん、行こう（手をつなぐ）」

期待・憧れ



「小学生たち教室に行っちゃったね…」
「今度は勉強しているところを見たいな」

環境の構成

○安心して活動できるように、事前に下見を含めて安全面や遊具の種類などを確認し、校庭での動きを予想しておく。

○一緒に体を動かして遊びながら、相手を思いやり頼ったりと、自然と関わりが生まれるような雰囲気をつくる。

○遊具の遊び方を小学生から幼児に分かりやすく伝えようとする様子を、相互が安心できるように温かく見守っていく。

○遊具に親しむだけでなく、校庭の飼育環境や植物環境、銅像や石碑などの文化的環境にも関心を抱けるように、保育者も一緒に、興味をもちながら親しむようにする。

○交流時間が終了してからも、子どもたちが満足感や余韻を味わえるように、時間に余裕をもって活動する。

先生の関わり

・子どもたちが安心して小学生と一緒に遊んだり挑戦したりできるように、職員の配置を考慮しつつ、安全面を見守る。

・子どもたちが様々な場で関わりをもちながら伸び伸びと行動できるように、相互の職員で配置を考え、援助していく。

・子どもたちが自然に交流することで、それぞれが自分の成長を自覚できる機会を探り、意欲的に関わる姿を丁寧に見取っていく。

・互いに自然な関わりがもてるように、保育者や教員は子どもたちの会話の内容に関心をもち、肯定的に見守りながら温かなまなざしを向ける。子ども同士のペースで遊びを選択できるように支えていく。

・楽しかった余韻を味わいながら、園に戻ってから活動を振り返り、次回に小学校を訪れることへ期待が膨らむようにする。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

中休み時間に交流を試みて「また小学校に来るね」「楽しかったよ」等と、小学生の親切さに安心したり就学への期待を抱いたりする姿が見られた。一度交流を図ったことで子どもも職員も顔が見える関係性になり、2学期も引き続き交流の場を設け、学びの連続性が期待できるようになった。

【小学校と共有するために】

保育者と小学校教員が顔馴染みになるには、まず小学校の保幼小接続コーディネーターや教頭に相談してみるとよい。双方が気軽に集まったり、フェーズ2（検討・開発）につながる意見交換の機会や相互参観を行ったりと、少しずつ交流を日常化し、年間計画に位置づけていく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有しよう
～遊びの写真を手掛かりに～

- ・ 幼児が自らの興味や関心に応じて環境に関わり、遊びに夢中になっている写真（具体的な姿）をもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について話し合う。
- ・ 保育者と小学校教員が同じ場面を見て話し合うことで、理解を深める。

準備

遊びの写真 10 枚程度、模造紙、ペン、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」一覧

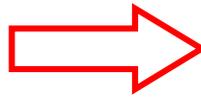
<p>1. アイスブレイク (5分)</p>	<p>○自己紹介 ○最近の子どもの姿で「すごいな」と感じたことを一言ずつ紹介する。</p>
<p>2. イメージの共有 (10分)</p>	<p>○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、一覧を見ながら、保育者から説明する。（参考：「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）」p. 4、5） ○グループ協議の流れの説明をする。</p>
<p>3. グループ協議 (40分)</p>	<p>○10 枚の中から 3 枚程度を選び話し合う。 ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどんな姿が捉えられるか。 ・ なぜそのように感じたのか。 ・ そのときの環境、道具や材料、友達、援助はどうだったか。 ・ これまでにどのような体験があったと考えられるか。 ・ 今後、さらに体験してほしいことは何か。 ・ この姿が小学校では、どのような場面に生かされると考えられるか。</p> 
<p>4. 振り返り (15分)</p>	<p>○グループで話し合ったことを共有する。（ポスター発表やプレゼンテーションなど） ○感想を紹介する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 場面のなかに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をいくつも読み取ることができ、子どもの育ちの捉え方が理解できた。 ・ 写真をよく見ると、様々な情報が隠れていることに気づいた。 ・ 今度は実際の保育を参観したいと思った。 </div> 

<進め方のポイント>

- ・ 子どもの興味や関心、遊びの様子が見取れるような写真を選ぶようにする。
- ・ はじめて「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知る参加者がいることも考えられるので、到達目標ではないことや、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育まれる具体的な姿であることなどを共通理解できるようにする。
- ・ 写真の場面の正解を求めるのではなく、そこから様々な読み取りができることを促すようにする。
- ・ 園内や校内での研修、校区の研修等にも応用することもできる。
- ・ 動画（幼児期の遊びや活動の記録動画）を視聴し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに話し合う研修も、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有や理解に有効である。（動画例：「箱んでハイタワー」など：『映像で見る主体的な遊びで育つ子ども』エイデル研究所）
- ・ その際、ワークシート（映像資料を見て語り合おう）の活用などが考えられる。

「映像を見て語り合おう」

映像の中で見られる
「幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿」



小学校の学習や生活との
つながり

健康な心と体

自立心

協同性

道徳性・規範意識の芽生え

社会生活との関わり

思考力の芽生え

自然との関わり・生命尊重

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

言葉による伝え合い

豊かな感性と表現

--

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくらたり、守つたりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）より：文部科学省HP

視点をもって授業参観をしよう
～幼児教育と小学校教育の学びと育ちをつなぐための授業参観～

- ・保育者が授業参観をし、幼児教育が小学校教育の土台となっていることを確認する。
- ・視点をもって授業参観をすることで、架け橋期の子どもの学びや育ちのつながりを保育者が感じることができるようになる。
- ・協議をすることで、幼児期に育まれたことを踏まえた指導の工夫を小学校教員が行うことができるようになる。

準備

小学校のスタートカリキュラム・幼児教育施設の指導計画等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の資料、参観メモ

<p>1. 参観の説明 (10分)</p>	<p>○参観メモの使い方（幼児教育アドバイザー、指導主事等） ○今日の日程等の確認</p>
<p>2. 授業参観 (45分)</p>	<p>○参観メモをもとに1学年の学級の参観をする。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、学びや育ちがどのようにつながっているのかを捉える。</p> <div data-bbox="1098 696 1453 831" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>気付きを促す支援は 幼児期の教育と一緒に</p> </div> <div data-bbox="480 860 1442 1149"> </div>
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (15分)</p>	<p>○意見交換ができるような環境の設定をする。 ○行政職員または小学校教員が司会進行をしながら協議を進める。 ○保育者は参観メモをもとに、参観をしての気付きや、聞いてみたいこと等を小学校教員と協議をする。</p> <div data-bbox="1098 1160 1453 1272" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>やっぱり発達段階に 合った指導が大切</p> </div> <div data-bbox="1086 1272 1453 1496"> </div>
<p>4. 振り返り (10分)</p>	<p>○保育者、小学校教員が今後、学びや育ちをつなげるために、どのようなことをしていけば良いのかを参観者皆で共有していく。</p> <div data-bbox="480 1576 1453 1818" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・困り事や疑問を言葉で伝えられるような子を育てていきたい。 ・遊びからの学びも授業からの学びも「考える力」は大切だと感じた。 ・園で行っている一つ一つのことが、小学校教育の基礎になっていると、改めて思った。 ・幼児期の学びを生かした授業を行っていきたい。 </div>

<進め方のポイント>

- ・学びや育ちの理解をより深められるように、幼児教育とのつながりが顕著に現れる、1年生スタート時の4月、5月に実施をする。
- ・初めは、行政が中心となり、開催日程の共有や保幼小全ての職員の理解と協力を得られるようにし、フェーズが上がるごとに、中学校区や小学校区ごとに実施できるようにする。
- ・架け橋タイム（グループ協議）や振り返りでの成果を、架け橋カリキュラムの指導上の配慮事項に入れる。

小学校参観のメモ

参観者 _____

日付	参観校	参観学級	担任	科目
令和 年 月 日 ()	小学校	1年 組		

【授業や生活の様子】

時間	児童の姿	教師の関わり

【協議・振り返り】

幼児教育とのつながりについて

保育者
(年間)

子どもの学びを捉えよう① ～園内で子どもの学びを共有する～

- ・遊びや生活を通しての学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「幼児教育において育みたい資質・能力」から考える。
- ・子どもの姿から学びを見取る視点をもったり、年齢や時期による遊びの変化から学びのつながりを考えたりする機会をもつことで、子どもの学びを説明できるようになる。

準備

本日の日案等（幼児の姿・環境構成・保育者の関わり）、付箋、模造紙、カラーペン
保育参観メモ（保育者用）、幼児教育において育みたい資質・能力の資料、ワークシート

1. 保育参観の説明 (5分)	<p>○参観の視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。
保育参観 (30分～40分)	
2. 子どもの姿から、学びを捉える。 (10分)	<p>○保育の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の担当者より保育について本日のねらいをもとに振り返る。 <p>○参観した場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参観時に見られた子どもの姿から、遊びや生活を通した学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から考える。 <p>○グループ協議の流れを確認する。</p>
3. グループ協議 (20～30分)	<p>○遊びや生活における子どもの姿に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として捉えた学びを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが捉えた子どもの姿を遊びのコーナーごとにまとめる。 ・他に捉えられる姿はないか話し合う。 <p>○子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」を考える。(遊びのコーナーや生活場面を1つにしぼるの可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、育まれている資質・能力を考える。
 <p>できるだけ多くの子どもの姿を書く。 同じような姿はまとめる。</p>	
 <p>その日見られた子どもの姿によって、複数の資質・能力が重なったり、一つの資質・能力が多く見られたりすることもある。</p>	
4. 振り返り (10分)	<p>○グループごとに、まとめたものを発表（代表でも可）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「幼児教育において育みたい資質・能力」につながる学び等について <p>○意見・感想</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から子どもの学びを捉えることで、一つの場面で様々な学びがあることを知った。同じ場面でも捉える学びは人によって違っていた。 ・子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」の視点で学びを捉えようとすると、子どもの行動だけでなく心情なども考えることになった。

<進め方のポイント>

- ・参観で子どもの姿を多く書き留めることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の学びが見つけやすい。
- ・「幼児教育において育みたい資質・能力」については、初めて行う時には書き込める図のようなものを用意しておくとうわりやすい。(ワークシート参照)

保育参観メモ(保育者)

参観者 _____

令和 年 月 日() _____ 歳児 _____ 組

【遊びの場面、環境構成・保育者の援助などから子どもの学びを見取る】

幼児の姿(環境構成・保育者の関わりなど)	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
	<p>(1)健康な心と体 幼稚園※生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>
	<p>(2)自立心 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>
	<p>(3)協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>
	<p>(4)道徳性・規範意識の芽生え 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>
	<p>(5)社会生活との関わり 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園※内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>
	<p>(6)思考力の芽生え 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>
	<p>(7)自然との関わり・生命尊重 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>
	<p>(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
	<p>(9)言葉による伝え合い 先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
	<p>(10)豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>

※本資料は「幼稚園教育要領」をもとに作成しているが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は保育所や幼保連携型認定こども園も要領・指針に同様に記載されているため、「幼稚園」の部分は、「保育所」「幼保連携型認定こども園」にも読み替える。

保育者と小学校教員
(2～3学期)

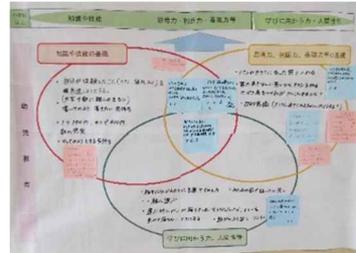
子どもの学びを捉えよう②
～保育参観をして遊びの中の学びを共有する～

- ・ 幼児期の遊びや生活を通しての学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「幼児教育において育みたい資質・能力」から考える。
- ・ 子どもの姿から学びを見取る視点を持ち、幼児教育と小学校教育の学びのつながりを考えるようになる。

準備

本日の日案等（幼児の姿・環境構成・保育者の関わり）付箋、模造紙、カラーペン
保育参観メモ（保育者と小学校教員用）、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の資料（ワーク1参考資料等）、幼児教育において育みたい資質・能力の資料、ワークシート

<p>1. 参観の説明 (5分)</p>	<p>○子どもの姿を捉える視点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。
<p>保育参観 (30分～40分)</p>	
<p>2. 子どもの姿から、学びを捉える。 (10～15分)</p>	<p>○幼児教育施設での生活や遊びの一場面から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参観時に見られた子どもの姿を付箋に書き、遊びや生活を通した学びを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から見つける。 <p>○グループ協議の流れの説明をする。</p>
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (20分)</p>	<p>○遊びや生活における子どもの姿に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として捉えた学びを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれが捉えた子どもの姿を遊びのコーナーごとにまとめる。 ・ 他に捉えられる姿はないか話し合う。 <p>○子どもの姿から「幼児教育において育みたい資質・能力」を考える。(遊びを1つにしぼるのも可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの姿と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、育まれている資質・能力を考える。 ・ 保育者の学びの見取りと小学校教員の学びの見取りの相違点や共通点を出し合いながら、学びの姿について考える。
<p>3. 振り返り (10分)</p>	<p>○グループごとに、まとめたものを発表(代表でも可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から「幼児教育において育みたい資質・能力」につながる学びについて <p>○意見・感想</p> <p>〈例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夢中になって遊んでいる姿が学習への素地につながるということがわかった。 ・ 子どもたちの遊んでいる姿を小学校の先生と見たことで、遊びから学んでいることを説明しやすかった。 ・ 小学校教員として幼稚園訪問は初めてだった。発想力の豊かさに驚いた。



<進め方のポイント>

- ・ 参観時に、遊びの経緯や遊びの中で育っていることなどを説明しながら小学校教員に伝えると、遊び中の学びの姿が理解しやすい。遊びについて説明できるようにしておく。
- ・ 遊びから捉える「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が小学校教員に理解しやすいように、保育者が積極的に発言するとよい。
- ・ 成果が架け橋カリキュラムにつながるようにする。

保育参観メモ(保育者と小学校教員)

参観者

日付	参観施設	参観クラス	担任
令和 年 月 日()		5歳児 組	

【幼児の姿、環境構成、保育者の関わりなどから子どもの学びを見取る】

幼児の姿(環境構成・保育者の関わりなど)	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」※
	(1)健康な心と体 
	(2)自立心 
	(3)協同性 
	(4)道徳性・規範意識の芽生え
	(5)社会生活との関わり 
	(6)思考力の芽生え 
	(7)自然との関わり・生命尊重 
	(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
	(9)言葉による伝え合い 
	(10)豊かな感性と表現 

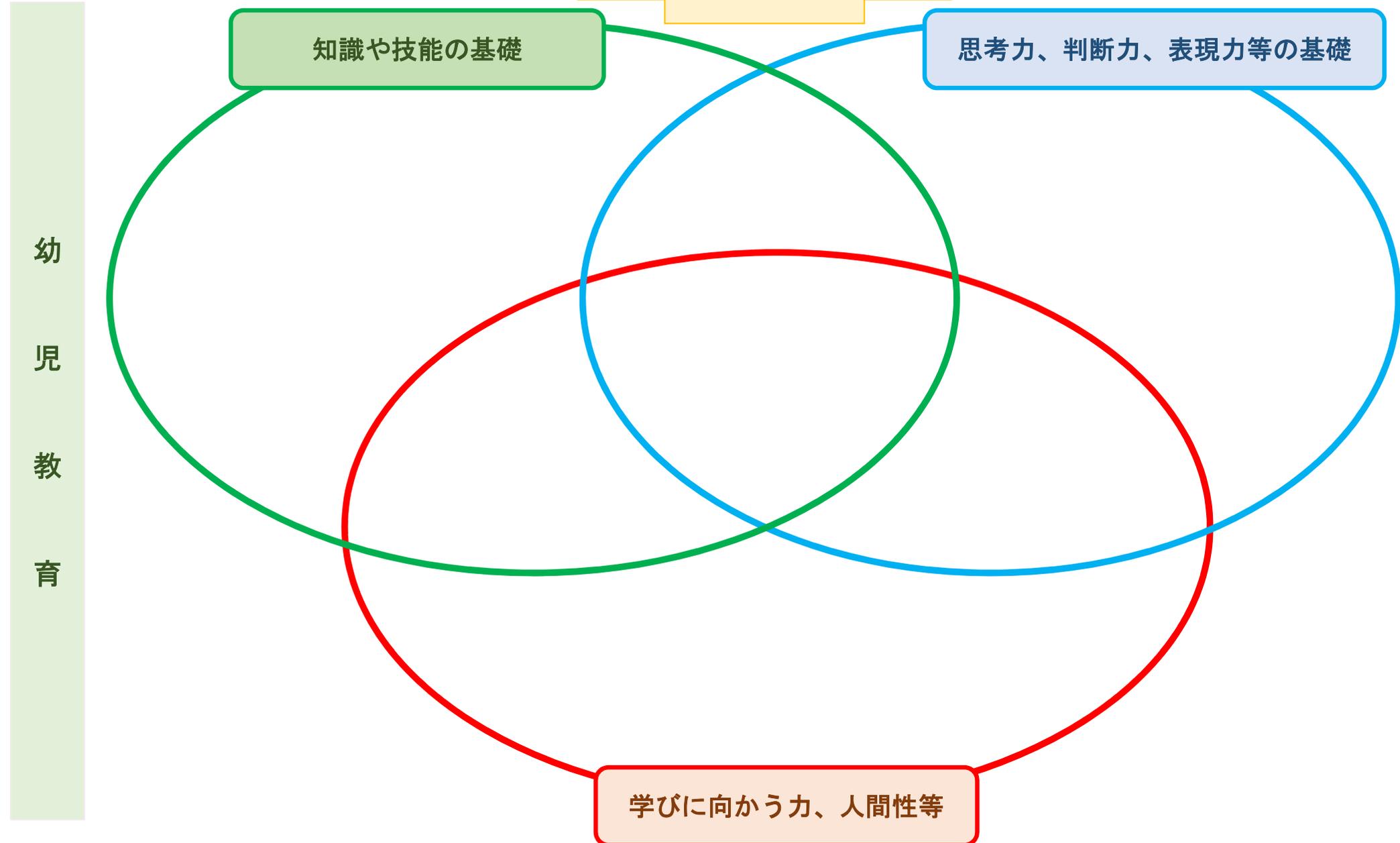
【協議の振り返り】

小学校教育とつながっていると感じたこと	これからの保育・教育に生かしたいこと

※「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、ワーク1の参考資料を参照のこと。

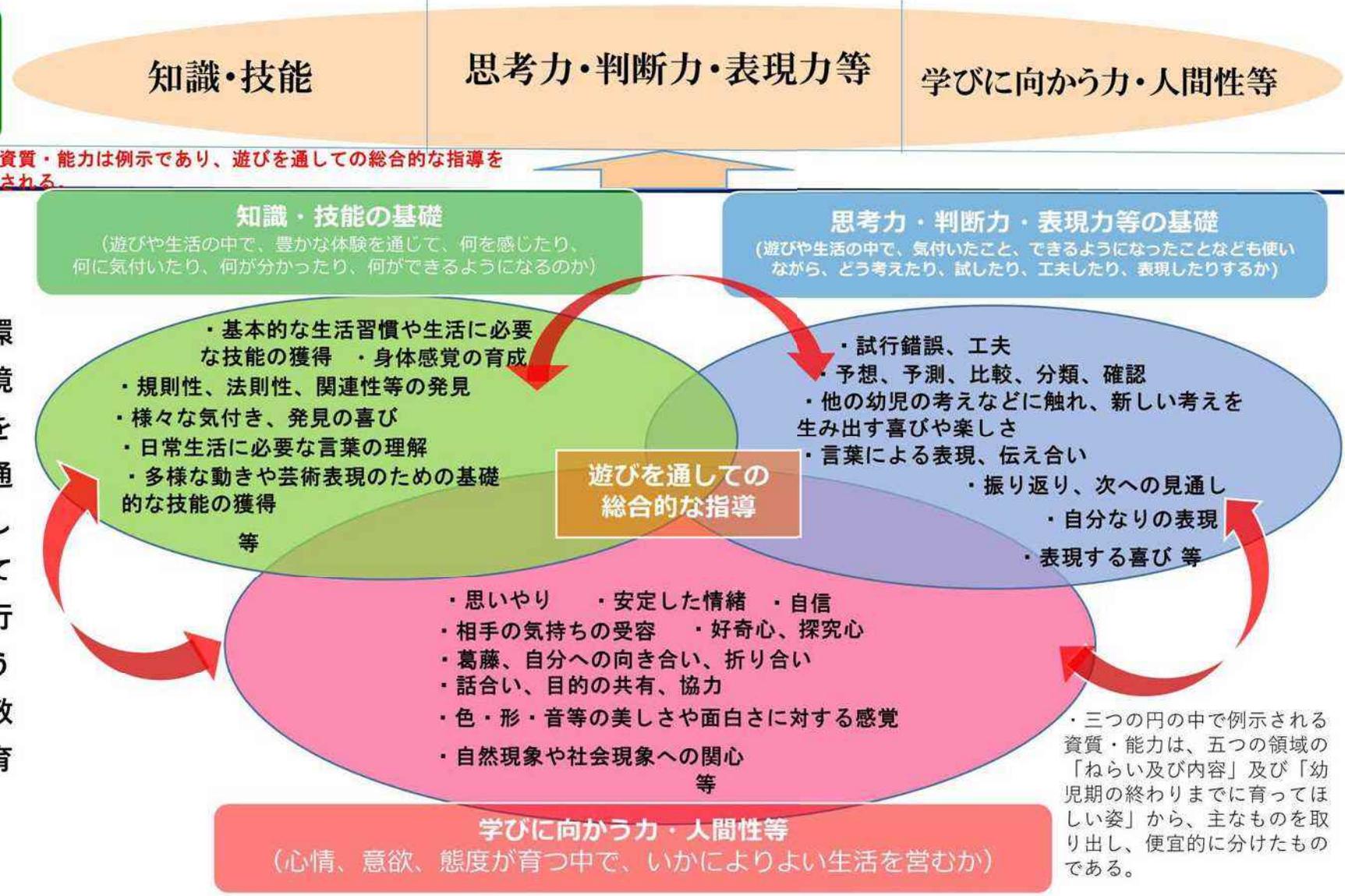
「幼児教育において育みたい資質・能力」ワークシート

小学校 以上	知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
-----------	-------	--------------	--------------



幼児教育において育みたい資質・能力の整理

小学校
以上
環境を通して行う教育
幼児教育



小学校 60分

全職員で考える「こども園と小学校の円滑な接続」

ーワールドカフェの手法を用いてー

課題

- ・高学年担任が多い教員が、円滑な接続の必要性を十分に認識していない。
- ・保幼小接続カリキュラムのマンネリ化が見られるようになっている。
- ・全職員が具体的に課題をとらえるため、こども園や本校1学年の様子を撮影した動画を視聴する。

工夫

- ・多くの職員の意見を引き出すため、ワールドカフェの手法を取り入れる。

参加者

- ・校長、教務主任（ファシリテーター）、教諭（20人）、計22人

ワールドカフェ 話し合いの手法の一つ。メンバーを替え、オープンに会話を行い、新しいアイデアや知識を生み出すのが目的

★前日までの準備

- ・模造紙、カラーペン（各班）・付箋、研修要項 ・資料（掲示用）
- ・各園及び小学校の生活の様子を収録した動画 ・研修会場の準備

1 はじめに（5分）

- ① 研修のねらいや流れ、動画視聴の際の視点等を説明する。
※付箋に書きながら動画を視聴することを確認する。

POINT 研修が効率よく行えるように、事前に研修の要項を配付しておく。

R3. 7. 28
令和3年度 校内研修要項
こども園と小学校の円滑な接続プログラムの改善に向けた研修

〇〇市立A小学校

- 1 ねらい
職員が、幼児期の教育や保育の共通点や小学校教育との違い等について話し合い、気付きを共有することで、接続プログラムの改善につなげる。
- 2 日程及び内容
- (1) 日程 令和3年7月28日（水）10:00～11:00
- (2) 内容
- ビデオ視聴の視点
- ① 3園の共通点
 - ② 園の活動や保育と小学校教育との相違点
 - ③ その他（新たな気付き・円滑に接続するために大切なこと等）
- ② ビデオ視聴（約25分）
- ・〇〇市立A小学校
 - ・〇〇市立Bこども園
 - ・認定こども園C園
 - ・認定こども園D園
- ③ ワールドカフェで語ろう（14分）
- ア やり方、テーマの説明
 - イ 意見交換（7分）
 - ウ 1人を除きテーブルを移動する。
 - エ 意見交換（情報共有）（7分）
- ④ 意見の共有とまとめ（7分）
- 円滑な連携のために大切なこと
 - 今回の研修をとおして考えたこと
- ⑤ 全体会（意見の全体での共有）（約5分）
- ⑥ 校長先生より

2 動画の視聴（25分）

- ② こども園3園の様子を視聴し、各自の考えを付箋に書く。
- ・朝の様子
 - ・帰りの様子
 - ・活動の様子
 - ・給食の様子

POINT 幼児期の教育や保育について共通理解を図るため、こども園3園の様子を最初に視聴する。

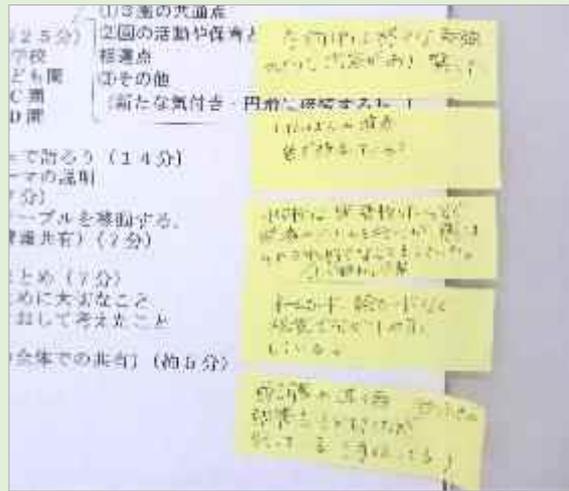


POINT 視点①「3園の共通点」について、付箋に書きながら視聴する。

③ 本校1年生の様子を視聴し、付箋に書く。

・朝の活動の様子

POINT 視点②「園の活動や教育・保育と小学校教育との相違点」について、付箋に書きながら視聴する。



③ ワールドカフェ
エで意見交換
(14分)

④ 進め方、テーマを説明する。

ワールドカフェで語ろう！

研修時のルール

- ① どんな意見も否定しない。
- ② 「いいな」「なるほど」と思ったらほめる。

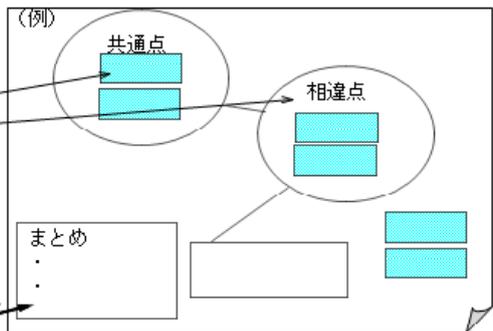
ワールドカフェの進め方

- 【1回目】(7分)
- ① 自己紹介をする。
 - ・今はまっていること(もの)等
 - ② 動画を観て考えたことを話し合う。
 - (テーマ)
 - ・3園の実践や子供たちの様子の共通点
 - ・小学校教育との相違点
 - ・円滑な接続のために大切だと思うこと

- 【2回目】(7分)
- ① メンバーチェンジする。
 - ・テーブルに1人残る
 - ・他のメンバーは被らないように移動
 - ・各テーブル3人~4人になるように
 - ② 自己紹介をする。
 - ③ 意見交換をする。
 - ・自分たちのテーブルで出た意見を紹介する。
 - ・自分の考えを伝える。

情報交換・まとめ

- ① 最初のテーブルに戻って情報を共有する。
- ② 考えをまとめる。



POINT 流れを把握しやすいように、資料を提示して説明する。

⑤ テーマについての意見交換をする。(7分)

・リラックスできる雰囲気づくりをして始める。

※誕生日により座席を決める。

※自己紹介を含めたアイスブレイクを行う。

※司会を決めずに「みんなで」語り合うように促す。

POINT 若手も中堅もベテランも自由に意見を言える雰囲気を大切にする。



POINT 一つのテーブルに座るのは4人~5人とする。

⑥ 伝えに行くメンバーを替えて意見交換をする(7分)

・1人はテーブルに残る。

・他は最初のメンバーと被らないように移動する。

4 各班の情報の共有・まとめ (7分)

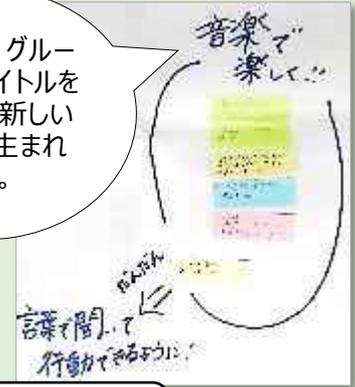
幼児教育で目指す姿を知ることが必要だと思いました。

- ⑦ 似た意見をグルーピングし、意見をまとめる。(7分)
- ・⑥で伝え合ったことについて情報を共有し気付いたことを書き足す。
- ・円滑な接続のために大切だと思うことについてまとめる。

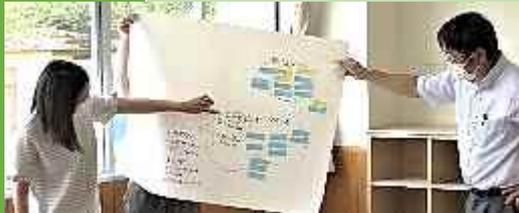
POINT グルーピングしタイトルを付けると、新しい気付きが生まれやすくなる。



どの園も音楽を上手に活用していたと思います。

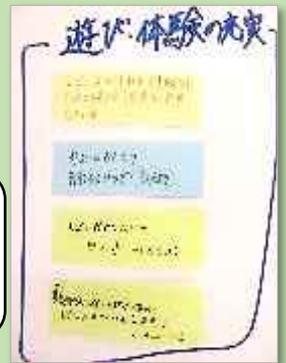


5 全体での情報の共有 (5~6分)



- ⑧ 各班ごとに、協議内容を発表する。(約1分×5班)
- ※模造紙上でまとめたことをもとに発表する。
- ※班の全員が当事者意識をもつように、発表者はまとめの後で決めるようにする。

円滑な接続のためには、小学校での生活科の学習も大事だと気付きました。



6 振り返り (3分)

- ⑨ 学校長からの助言を通して研修の振り返りをさらに深める。
- ⑩ 接続コーディネーターを中心とした接続プログラムの改善につなげることを確認する。



■ 研修を振り返って ■

- ・動画視聴の際の視点を示すことで、何について話し合うのかが明確になり、テーマに沿った研修を行うことができた。また、動画視聴を通して、低学年担当の経験がない職員も、円滑な接続のために大切なことを具体的に考えることができた。
- ・最初の話合いのテーブルに戻って他班で聞いてきた情報を共有することで、円滑な接続プログラムの改善に当たり、「各園での共通実践を小学校での活動に生かす」という視点を取り入れる必要があることに気付くことができた。
- ・ワールドカフェの手法を活用することで、若手も中堅も気後れせず自分の考えを伝え合うことができ、笑顔あふれた語り合いをすることができた。また、メンバーチェンジをすることで他班の様々な考えを知り、語り合いの視点や考えに広がりが見られた。
- ・話合いの時間を十分確保するためにも、事前にワールドカフェの進め方についての資料を配付しておくよかった。
- ・次回は、「まとめ」の枠を印刷した模造紙を用意して各班の考えを明確にし、さらに改善につなげられるようにしたい。

フェーズ2 ～検討・開発～



✓	Check! (実施しているものにチェック)	参考
□	<開発会議> 架け橋カリキュラムの【共通の視点】の検討	
□	<開発会議> 保育者・小学校教員が協働して開発するための支援（市町村での研修等）	ワーク5～9
□	5歳児～1年生の2年間を対象としている	
□	事前・事後打合せ等、幼児と児童の双方に学びのある交流を工夫	

★実施のポイント

○カリキュラムの【共通の視点】を明確化する

文部科学省の「幼保小の架け橋カリキュラムの実施に向けての手引き (p.21～30)」等を参考に、カリキュラムの共通の視点を決定しましょう。

本資料の【共通の視点】

「育てたい子どもの姿」「育てたい資質・能力」「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」

「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」「交流・連携計画」「家庭との連携」

○最初に、「育てたい子どもの姿」について話し合おう

肯定的に子どもの育ちを捉え、市町村（または小学校区等）で「育てたい子どもの姿」について最初に話し合い、共通のイメージをもちましょう。

「就学時」だけに限らず、0～18歳までの発達の連続性の中で、「育てたい子どもの姿」をイメージしながら、未来志向の語り合いができるとうよいですね。

○保育者と小学校教員で意見交換しながら一緒に作る

担当部分について個別に考えてきたものを合体すると、つながりがないものになり、後で修正するのは困難です。写真等を用いて説明し、互いの教育について相互理解しながら、一緒に作っていくことが、保育・授業の改善にもつながります。できるだけ同じ構成員で進めていくことが、うまくいくポイントです。

○一人一人の実態に応じた支援について共に考える

一人一人に応じた指導を重視する幼児教育のよさを生かしながら、子どもの実態に応じた適切な支援について考えましょう。

- ・保育者と小学校教員が、架け橋カリキュラム作成の第一歩として、どのような子どもを育てたいのかを、具体的な姿をイメージしながら語り合う研修である。
- ・保育者と小学校教員が「育てたい子どもの姿」を共有するとともに、互いの教育内容や指導方法について知り、それぞれのよさを尊重しつつ、幼児期の学びと小学校の学習のつながりを意識できるようになることが大切である。

準備

グループ協議用ワークシート、付箋、カラーペン
園や学校のグランドデザイン等 教育目標が書かれた資料
県や市町村の教育目標が掲載された資料

1. アイスブレイク (10分)	○自己紹介をする。 氏名・最近行った嬉しかったできごと・自分のクラスで流行している遊び
2. イメージの共有 (10分)	○本研修会のねらいについて押さえる。 市町村や小学校区の「育てたい子どもの姿」を考えることで、架け橋カリキュラム作成につなげることを伝える。
3. 架け橋タイム (グループ協議) (40分)	<p>○各自で「育てたい子どもの姿」を考え、付箋紙1枚につきキーワードを1つずつ記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園や小学校の教育方針を踏まえて考える。 ・市町村の教育方針、コミュニティスクールの目標等があれば参照する。 <p>○グループ内で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙をグループ協議用のワークシートに貼りながら、なぜそのキーワードにしたのか理由を紹介し合う。 ・付箋を動かしながら、内容ごとのまとまりを作っていく。 ・まとまりごとに見出しをつけるなどして、内容を整理する。 <div data-bbox="481 1249 778 1527" data-label="Image"> </div> <p>私の学校の教育目標に「人とつながる学び」があります。人とつながるために大切なこととして、私は「思いやり」を記入しました。</p> <p>「協力できる子」と「友達が好き」というキーワードも、よりよい人間関係づくりに関連しますね。3つは同じまとまりに入れましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「育てたい子どもの姿」を1つのキャッチフレーズにまとめる。 例) なかまとワクワク やってみたいをやる子 ～一人でも、みんなとでも～ <p>○全体で、各グループのキャッチフレーズを理由とともに紹介し合う。</p>
4. 振り返り (10分)	○研修会の感想を共有する。 ○講師の話(いる場合)

<進め方のポイント>

- ・市町村主体の研修にする場合は、小学校区でグルーピングすると、より円滑な連携につながる。
- ・ワークで話し合ったことを、架け橋カリキュラムの「育てたい子どもの姿」に反映させる。

令和〇年度 〇〇市(〇〇小学校区) 架け橋カリキュラム ～「育てたい子どもの姿」を考えよう～

	5歳児	1学年
<p>育てたい子どもの姿 (ワークの最後にキャッチフレーズにしましょう)</p>		
<p>キーワード等</p>		
<p>育みたい資質・能力</p>	<p>知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)</p> <p>思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p>遊びを通しての総合的な指導</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関わり ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 <p>知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p>『確かな学力』『健やかな体』『豊かな心』を総合的にとらえて構造化</p> <p>思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることをどう使うか)</p>	

【共通の視点】大切にしたいこと
～遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わりについて考える～

- ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を保育者と小学校教員が改めて捉え直す。
- ・「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」について保育者と小学校教員が意見を出し合い考えていく。

準備 5歳児、1学年の遊び込んでいる、学び込んでいる写真
 自校のスタートカリキュラム、自園の指導計画等、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、小学校学習指導要領
 県や市町村の教育目標が掲載された資料、模造紙、付箋、カラーペン、ワークシート

<p>1. アイスブレイク (10分)</p>	<p>○「わたしの〇×クイズ」を行いグループの中で話しやすい雰囲気を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ自分に関する〇×クイズを考える。 ・一人が出題し、残りの人は解答する（〇×のジェスチャー） ・それにまつわる質問をしたり、感想を言い合ったりする。
<p>2. イメージの共有 (5分)</p>	<p>○研修のねらいやグループ協議の流れについて主催者が説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を考えた上で、環境の構成、先生の関わりを共有し、架け橋カリキュラム作成につなげることを伝える。
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (45分)</p>	<p>○各自が持参した写真を模造紙に並べながら、何を大切にしたい写真なのか伝えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を中心に伝えていく。その場面の環境の構成、先生の関わりも一緒に話をしていく。 ・質疑応答をしながら、大切にしたいことのキーワードが見えてきたら、付箋に記入し、写真の横に貼っていく。 <p>○グループ全員の持ち寄った写真について話し終わったら、「育てたい子どもの姿」や「育みたい資質・能力」をもとに、「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」、環境の構成、先生の関わりについてキーワードで整理する。</p> <p>○幼児教育と小学校教育の育ちや学びのつながりについて、気が付いたことを話し合いながら、カリキュラムワークシートにキーワードをまとめていく。</p>
<p>4. 振り返り (15分)</p>	<p>○グループの代表者がキーワードを全体に共有する。</p> <p>○共有した「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」や「指導上の配慮事項（環境の構成、先生の関わり）」を架け橋カリキュラムへ反映させていく。</p>

幼児教育施設のこの活動は、私が持参した1年生のこの活動と似ている。あ！配慮事項も一緒。



<進め方のポイント>

- ・写真を使って協議することで具体的に話ができ、その時の子どもの様子が共有しやすくなる。
- ・保育者と小学校教員とのグループで協議することによって、育ちと学びのつながりを意識した「大切にしたいこと」が明確化されていく。
- ・相互理解することにより、子どもの発達を長期的な視点で捉えることができ、架け橋カリキュラム作成の手がかりとしていくことができる。

令和〇年度〇〇市(〇〇小学校区)架け橋カリキュラム(イメージ) ~「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと・環境の構成・先生のかかわり」を考えよう~

RO.O.O現在

項目	5 歳児												1 学年											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
育てたい子どもの姿																								
育みたい資質・能力	<p>知識・技能の基礎 (遊びや生活の中で、豊かな体験を通して、何を感じたり、何が分かったり、何ができるようにするのか)</p> <p>思考力・判断力・表現力の基礎 (遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)</p> <p>遊びを通しての総合的な指導</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (心情・意欲・態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)</p> <p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現</p> <p>方向目標</p> <p>続けて育んでいく</p> <p>知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)</p> <p>学びに向かう力・人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)</p> <p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的にとらえて構造化</p> <p>思考力・判断力・表現力等 (理解していること・できていることをどう使うか)</p>																							
遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと																								
指導上の配慮事項	環境の構成																							
	先生のかかわり																							

架け橋期(5歳児から1年生の2年間 ~0歳から18歳までの発達の連続性を見通して~)

今までの接続期のカリキュラムをベースに

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

【共通の視点】指導上の配慮事項
～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう①～

- ・ 保幼小接続期の特別支援教育について理解を図り、架け橋カリキュラムに反映できるようにする。
- ・ 子どもの様子や担当者の悩みを伝え合い、共感できるようにする。特に困り感だけで捉えず、肯定的な捉えや支援方法について意見交換していく。
- ・ 保幼小や特別支援教育の担当で研修内容を共有し、今後の実践に生かしていけるようにする。

準備 講話資料、ワークシート、筆記用具、プロジェクター

<p>1. アイスブレイク (5分)</p>	<p>○自己紹介（最近のブーム、最近嬉しかったこと等）</p>
<p>2. イメージの共有 (40分)</p> <p>【講師講話等】 (大学教員、特別支援学校特別支援教育コーディネーター、市町村教育委員会指導主事等)</p>	<p>○講話 「架け橋期における気になる子どもの支援について」 (例) ・ 合理的配慮について ・ 配慮が必要な子どもへの具体的な支援について ・ 環境の構成について 等</p> 
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (30分)</p>	<p>○講義の感想について伝え合う。 ○現在行っている指導上の配慮について伝え合う。 ○架け橋カリキュラムへ反映させたい内容を伝え合う。 (例) ラウンド・ロビン法：ブレインストーミングの一種で、意見やアイデアを順番に話していく手法。話した人の考えに質問や評価はせずに、新しい考えを次々に伝える。</p>  <p>同じ活動の中でも、一人一人の実態に合わせて目標を設定しているんですね。</p>
<p>4. 振り返り (15分)</p>	<p>○全体で意見を共有する。 ○環境の構成や先生の関わりなどに関して、自園・自校のカリキュラムに反映させたい内容を記録しておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><意見から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講話をもとにして、一人一人の児童の捉えや関わり方について考え、日々の学習の場面で意識していきたいと思いました。(小学校) ・ 様々な配慮を要する子どもに関して情報を共有できて勉強になりました。また、小学校の先生と話し合うことで、保幼小で連携することの大切さがよく分かりました。(保幼) </div> <p>○講師からの助言</p>

<進め方のポイント>

- ・ 講話やグループワークのテーマを明確にし、参加者の意見を十分に共有できるような人数や活動の設定が必要である。
- ・ 市町村等で開催の場合は、小学校区の主体的な連携の取組が進めやすいように、小学校区での班編成を行うとよい。
- ・ 多様な子どもの姿を共有することで、子どもの実態に合わせた環境の構成や先生の関わりの視点を架け橋カリキュラムに反映していく。
- ・ 特別支援学校の特別支援教育のセンター的機能である、「教員への支援・研修協力機能」、「特別支援教育等に関する相談・情報提供機能」を活用し、配慮事項に関する助言や研修会の講師などを依頼することができる。

保育者と小学校教員
夏期～秋期

【共通の視点】指導上の配慮事項
～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう②～

- ・ 共通の事例を共有した後、関連する気になる子どもへの支援についてテーマを決めて話し合うことで、一人一人の実態に応じた環境の構成や先生の関わりについて検討していく。
- ・ これまでの子どもの実態や配慮事項、支援方法について好事例等を共有し合うことで、参加者が多面的な視点で子どもを捉え、具体的な支援を考えることができるようにする。

準備 事例資料、ワークシート、筆記用具、動画、プロジェクター

<p>1. アイスブレイク (5分)</p>	<p>○自己紹介（最近のブーム、最近嬉しかったこと等）</p>
<p>2. イメージの共有 (30分) 【動画視聴または、事例の共有】 ○事例の場合には個人が特定できないように配慮をする</p>	<p>○動画を視聴したり、事例の説明を聞いたりしながら、対象となる子どもの姿をイメージする。 (参考資料) ・【動画】文部科学省選定 特別支援教育・保育ビデオ「みんなで育てる みんなで育つ 子どもの困難さに寄り添う保育」企画・製作・著作・販売 幼児教育映像制作委員会 ・【事例】文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料」P36</p>
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (40分)</p>	<p>○動画や事例の内容に関連した、配慮が必要な子どもに関して、各園・各学校の子どもを想定し、話し合う。 (気になる子どもの例) ・ 個別の活動が中心となる子ども ・ 言語などの発達がゆっくりな子ども ・ 活動の切りかえが難しい子ども (方法例) ・ KJ法：付箋などに情報やアイデア等を書き、意見を出し合いながら、共有したり整理したりしてまとめていく。</p> <div data-bbox="989 1030 1404 1411" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>気持ちの切り替えが難しい場合は、落ち着ける場所を用意している。</p>  <p>保育者や保護者から子どもの好きなことを聞き、興味・関心を生かして活動できるように準備している。</p> </div>
<p>4. 振り返り (15分)</p>	<p>○感想を伝え合い、架け橋カリキュラムに反映させたい内容を書き留めておく。</p> <div data-bbox="518 1512 1412 1814" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><意見から> ・ 今年度入学した児童の様子を伝えるとともに昨年度までの取組を共有できたので、明日からの支援方法に生かしていきたい。(小学校) ・ 他園の幼児の話であったが、自分の園にも似ている幼児がいるため、参考になった。(保幼) ・ 小学校の特別支援学級の様子や学習への支援方法を知ったので、これらを参考にして、5歳児の活動や環境の構成に生かしていきたいと考えた。(保幼)</p> </div>

<進め方のポイント>

- ・ 研修担当者が参加者に協議内容を共有する場合には、園・学校名や子どもの個人情報などに配慮する。
- ・ 話し合った内容を架け橋カリキュラムの「指導上の配慮事項（環境の構成・先生の関わり）」の参考とする。

架け橋カリキュラム「指導上の配慮事項」
 ～一人一人の子どもに応じた具体的な支援の例を考えよう～

子どもの姿 例) 個別支援を要する 子ども 活動の切りかえが 難しい子ども	指導上の配慮事項	
	環境の構成	先生の間わり

グループの人数や事例の件数に応じて枠を調整する。

架け橋カリキュラムへ反映 させたい内容 (上記記録に印を付けるの でもよい)	
---	--

【共通の視点】指導上の配慮事項
～就学に向けて具体的な支援を共有しよう～

- ・就学前の情報交換を行うことで切れ目のない支援につながるようにする。
- ・保育者から幼児期の支援方法を伝えるとともに、保育者と小学校教員で小学校の支援方法を共に考え、架け橋カリキュラムに反映する内容の参考とする。
- ・幼児教育施設・小学校の支援の体制を共有し、環境の変化に対して不安や戸惑いを感じた時の子どもの様子について伝えておく。

準備 事例資料、ワークシート、筆記用具

<p>1. 説明 (5分)</p>	<p>○情報交換の進め方を説明する。 ○情報交換したことを参考に、子どもの実態を捉え、支援方法を検討し、「架け橋カリキュラム」に反映していくことを伝える。</p>
<p>2. 個別情報交換 (40分) → 4×10分 【小学校1校と幼児教育施設1園での情報交換とする。待機時間は教材展示見学や幼児教育施設同士での情報共有を行うとよい】</p>	<p>○現在、個別の支援を行っている幼児について知らせる。 ○今後の様子を予測し、支援方法や環境設定について話し合う。 (ワークシートを記録用紙として活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育施設での子どもの様子・支援方法 ・小学校の支援方法 等 <div data-bbox="1098 763 1393 913" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>△△さんは、予定表を絵カードで伝えると見通しをもちやすいです。</p> </div> <div data-bbox="525 952 865 1205" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="550 1227 839 1254" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>教材を展示したフリースペース</p> </div> <div data-bbox="1046 896 1393 1131" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="991 1167 1337 1272" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○○さんは、全体指示の後に個別に伝えると活動を理解しやすいです。</p> </div>
<p>3. まとめ (5分)</p>	<p>○就学前の連携だけではなく就学後の情報共有・授業参観の重要性について説明をする。 ○ワークシートに「架け橋カリキュラム」に反映させたいことを書き留めておく。</p> <div data-bbox="515 1451 1380 1771" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><アンケートの意見から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学時の環境設定の参考になりました。落ち着くことができる場所の設定や座席の場所・向きなどを入学時から配慮していきたいと思います。(小学校) ・これまで卒園していった児童の話聞いて、特別支援学級や交流学級での時数や支援の内容などを知ることができて安心しました。また、次年度卒園の幼児に対する情報交換を行うことで円滑な入学につながって欲しいと思います。(保幼) </div>

<進め方のポイント>

- ・就学に向けての具体的な情報交換の場となるため、個人情報の取り扱いには十分に留意する。複数の教室や体育館・会議室等でブースを作成し、他のブースとの距離が近くなるように配慮する。
- ・個人情報に関わる可能性があるため、全体での情報の共有は控える。
- ・就学する子どもの実態や具体的な支援方法を知り、カリキュラムの目標や活動内容・場所の設定などを柔軟に対応できるようにする。
- ・保幼小接続コーディネーターと特別支援教育コーディネーターが連携し、特別支援学級や通常の学級に在籍する子どもについて様々な状況把握や支援方法の検討ができる体制を作ることが重要である。

架け橋カリキュラム「指導上の配慮事項」
～就学に向けて具体的な支援を共有しよう～

情報交換先	幼児教育施設での子どもの様子・支援方法	小学校の支援方法

架け橋カリキュラムに反映させたい内容	<ul style="list-style-type: none"> ○環境の構成 ○先生の関わり
--------------------	---

○ワークシートは情報交換の記録用紙の参考例であり、状況に応じて調整する。
(個人情報の取り扱いには十分注意する。)

- ・架け橋期の教育を保護者に紹介し、家庭と園、学校が連携することを目的とした研修である。
- ・保育者または小学校教員が、子どもたちの遊びや学びの様子を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に当てはめて具体的に伝えることで、保護者が幼児期の学びと小学校以降の学びのつながりを理解できるようにする。
- ・保護者が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにして子どもたちの学びの姿を共有し、家庭での関わりを考えることをねらいとしている。

準備

動画コンテンツ「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽”」
(文部科学省)

<https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo>
各園、小学校の遊びや学びの場面を紹介する写真 又は 動画



<p>1. アイスブレイク (10分)</p>	<p>○参加者同士で自己紹介をする。 氏名・最近ちょっと嬉しかったこと・丸3日フリーになったら、したいこと</p>
<p>2. イメージの共有 (20分)</p>	<p>○本研修会のねらいについて押さえる。 ・動画コンテンツを視聴する。(7分20秒) 幼児教育施設においては、子どもたちに遊びを通して資質・能力を育んでいること、その資質・能力は小学校以降の学習や生活の基盤となっていることを紹介する。 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を紹介する。 子どもたちの遊びや学びの場面を写真や動画で示し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と照らし合わせて成長の様子を伝える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自立心</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自然との関わり・生命尊重</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思考力の芽生え</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊かな感性と表現</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">協同性</div> </div>
<p>3. グループワーク (20分)</p>	<p>○保護者の関わりについて、グループで考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><例>「自立心」を育むために・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はいていく靴下など、小さな事から自分で決められるようにする。 ・植物の水やりなど、自分の役割を楽しみながら果たせるようにする。任せたことは多少時間がかかっても見守る。 <p><例>「言葉による伝え合い」を育むために・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を途中でさえぎったり、親が先回りして結論を言ったりしない。 ・目を見て「どうしたの?」「ゆっくりでいいよ」と声をかけながら話を促していく。 </div>
<p>4. 振り返り (10分)</p>	<p>○まとめ グループで話し合ったことを共有する。</p>

<進め方のポイント>

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は子どもの成長の方向性を示すものであり、到達目標にしたり個別に取り出して指導したりするものではないこと、一人一人の発達に応じて育まれていくものであることに留意する。
- ・子どもの学びや遊びの場面をあらかじめ写真や動画に記録しておき、保護者に伝える際に活用する。
- ・保育者や小学校教員の関わりも伝え、家庭での関わりを考える際の参考になるようにする。
- ・グループワークでは、保護者同士が4人程度で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち1つのテーマを選んで話し合う。あらかじめ話しやすいテーマを進行側で決めておいてもよい。

フェーズ3 ～実施・検証～



✓	Check! (実施しているものにチェック)	参考
□	<開発会議>実施状況の把握・検証と支援 例：保育者や小学校教員、保護者等にアンケートでヒアリング	
□	カリキュラムの【共通の視点】を実践に生かす	事例イ～ケ
□	教材としての「環境」の活用について保育者と小学校教員で一緒に考える機会の設定	(参考資料) 5歳児の環境
□	子どもの自発的な交流が生まれるよう、保育者と小学校教員で協働して工夫	事例オ

★実施のポイント

○架け橋カリキュラムが実践に生かされているか、実践事例をもとに検証する

カリキュラムは作成して終わりではありません。本資料のような実践事例の収集やフェーズ1～2のワークの繰り返しにより、検証していくことが大切です。カリキュラムの中にも、写真をいくつか入れてみることで、架け橋カリキュラムの見直しにもつながります。

写真や動画を持ち寄り、【共通の視点】により語り合うことも効果的です。

○フェーズ2のカリキュラム検討中も積極的に実践事例の収集・検証を

カリキュラムを全て完成させてから実践ではなく、子どもの姿をイメージし、保育や授業の実践について語り合いながら作成していくことが大切です。

子どもが主体的・対話的に遊び込んでいる（学び込んでいる）写真や動画、記録等を残しておき、カリキュラム検討の際にも活用していくとよいでしょう。

保育所

5歳児(6月)

夢中になって遊び込む

～宇宙船を作ろうよ!～

言葉による伝え合い

思考力の芽生え

窓に貼ってあった黒いビニールを何気なく爪で引っかいた際に、偶然に小さな穴が連なった。その穴から差し込む光を見て「キレイ、銀河みたい」とつぶやく子ども。友達とともに何度も光を指でたどり、爪で引っかき銀河を増やして楽しむうちに、「ここを宇宙にしよう!」と、遊びが動き始めた。

【この時期のねらい】 友達同士でやりたいことを伝え合いながら、同じ目的に向かう。

展開

興味・関心・好奇心



「木星ってすごく大きいね」
「茶色っぽくてしましなんだね」

繰り返し試す・こだわる



「天王星の次は海王星だっって」
「地球と同じ青い惑星なんだよね」

面白さの追求



「うどんカップと紙袋を合体したら、
宇宙服の頭になった!」
「ぼくも作りたいなあ!」

本物への憧れ



「宇宙は筋肉や骨が弱くなるから、
毎日2時間筋トレやるんだって!」
「本当だ。どっちにも重りをいっぱい
つけよう!」

環境の構成

○子どもが思いを形に表現できるように、アルミホイルやカラーペン等、身近な素材や材料を自由に手に取って試せるように、整えておく。

○友達の思いや考えに触れたり、情報を集めたりしながら形にするために、遊び込む時間を十分に設ける。

○図鑑で調べたり、新たな発見や気付きにつなげたりしながら、太陽系に興味をもつ一人の子の関心を他の子へとつなげ、目に留まりやすい場に惑星の配列図や特徴などの情報を提示し、友達と共有できるようにする。

○友達と試したり工夫したりできるように自分たちで遊びの場を設定していく。

○家庭と園とが遊びの過程を共有し、育ちを喜び合えるようにドキュメンテーションなどを活用し、遊びを通した子どもの育ちを共有していく。

○一人一人が自由にアイデアを出し合い、自分たちがやりたいことに挑戦しようと思える、安心できる場を保障する。

先生の関わり

・子どものつぶやきを拾い、同じ遊びに集う友達の興味の方向性を一緒に探り、関心をもって頷くなど共感した姿勢で遊びを支えていく。

・より本物に近づけたいと願う気持ちを尊重し、一人一人の思いを受け止め、宇宙について関心をもって一緒に調べたり面白がったりする。

・惑星の大きさや色の違い、重量等を探究する面白さを感じたり、情報を知ることを楽しんだりする姿を支えていく。

・クラス全体で遊びの振り返りの時間を使い、宇宙へのイメージや作り上げる過程を異なる遊びをしていた子に対しても共有していく。

・子ども同士の対話が深まるために、どのような意見にも耳を傾け、子ども同士で話し合いが深まるように、保育者が橋渡しとなって遊びの展開を整理したりみんなとの合意を図ったりする。

・家庭から持ち寄った空き箱など、身近な素材から遊びに必要な新たな道具を生み、面白さを共に感じられるように、保育者も子どもたちが工夫しながら作る姿に共感していく。

・宇宙飛行士が宇宙船内で筋トレをしている写真に子どもたちが注目し、力を合わせてダンベルを作る姿を温かく見守る安心して挑戦していけるように、場の雰囲気をつくる。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

友達とイメージを共有することで、一人一人の発想が豊かになり、対話が広がった。積極的に考えを出し合い、試行錯誤を繰り返し、新たな発見や挑戦につながっている。友達と遊び込む充実感や満足感を味わうことが、就学時の学びに向かう力につながっていくと考えられる。

【小学校と共有するために】

面白さに気付き始めている姿を自分の興味や経験からイメージを広げ、同じ目的に向かって友達と一緒に夢中になって遊んでいる姿を自由に参観できるようにする。

保育所
5歳児(6月)

夢中になって遊び込む ～いろいろな植物で染めてみよう～

健康な心と体

自然との関わり・
生命尊重

地域の文化や伝統に親しんでほしいという保育者の願いから、梅染めを体験した。自然物から色が生まれる不思議さを知り、子どもたちは草花を探し、染めたらどのような色になるのだろうと、友達と予想しながら試すことを面白がり、染め物遊びを繰り返し楽しんでいる。

【この時期のねらい】 友達と試したり考えたりしながら、五感を通して自然物を使った遊びを楽しむ。

展開

興味・関心・体験



「梅がピンクだったから、ツツジもピンクかな」

「葉っぱも一緒に染めたからかな」

やってみたい



「どうして水は茶色なのに、布は染まらないんだろう」

「梅の時はグツグツしていたよ。お湯に入れてみたらいいんじゃない?」

試す



「皮がきみどり色だから、きつときみどり色に染まるはずだよ」

「え? トウモロコシは黄色いから、黄色に染まると思うよ」

さらなる探究が生まれる



「トウモロコシの皮は染まらないね。じゃ、給食の人参の皮は?」

「おやつのパナナの皮も! 花壇の赤シソも! いろいろ染めてみよう」

環境の構成

○梅染めした布を、子どもたちの目に留まるスペースに飾り、好奇心が膨らむ機会を作る。

○自分で様々な草花を探し、染め出すことを十分に試し、楽しむように、ザルやボウル、すりこぎ等の道具の準備をする。

○給食に使用する玉ねぎの皮を子どもたちと一緒にむけるように、給食室とのつながりを意識する。

○梅染めの際に使用したガスコンロや鍋も控えておき、子どもたちの気付きから進められるように準備しておく。

○異年齢児への興味や関心も広げていけるように、様々な子どもたちが行き来する見晴らしの良いウッドデッキで皮むきを行う。

○一人一人が野菜の皮や実の色、匂い、感触など五感を通して味わえるように、十分な量や時間を確保する。

○様々な植物を染めてみたい好奇心や探究心を育むために、思い立った際にすぐに試せるように布は十分に準備しておく。

○みんなが見える場に染め布を飾ったりドキュメンテーションを掲示したりして、直接遊びに参加していない友達へも遊びの共有を図る。

先生の関わり

・子どもの発想や予想外の出来事を一緒に面白がり、どのようなアイデアであつても肯定的に見守る。

・保育者がモデルとなるように染め物遊びを楽しむ姿を子どもたちと共有し、挑戦しやすい雰囲気を作る。

・食材の皮を遊びに使うために調理員との情報共有を図り、子どもたちにとって給食室も身近であることを実感できるようにする。

・子どもの考えより先走りせず、子どものつぶやきを拾い、応答的な関わりを心掛ける。

・同じ空間に異年齢児が集い、助け合いながら皮むきをする様子を見守り、年齢を超えてワクワクを共感できるように支えていく。

・トウモロコシの皮の染まる色を予想し、友達と伝え合う姿を保育者も関心をもって聴き、それぞれの意見を受け止めていく。

・予想通りにならない疑問や染める工程を振り返り、「どうして?」の問いを友達同士で共有し、対話が深まるように保育者も共に問いを立て、心の動きに丁寧に寄り添う。

・子どもたち自身が遊びを振り返ることができるように掲示を工夫し、ワクワクしながら探究していく遊びが継続できるように支える。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

保育所保育指針の保育の内容「環境」の(ア)ねらい②に「身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする」とあるように、子どもたちは植物の色や匂い、感触を味わい、自分たちの予想と経験から不思議さや面白さを楽しんでいる。自発的な遊びに友達が加わり、繰り返し試すことを喜ぶ姿が学びの芽生えとなり、探究的な学びへとつながっていく。

【小学校と共有するために】

子どもが身近な環境に応答的に働きかけ、友達と探究しながら遊び込み、対話する様子をドキュメンテーションや保育ウェブ等で可視化し、交流の場で幼児期の遊びの中の学びについて共有できるようにする。

幼稚園
5歳児(9月)

夢中になって遊び込む ～これが運動会のシンボルだ！～

豊かな感性と表現

協同性

日頃から共有スペースで画材を自由に選択し、自分らしさを表現して楽しんでいた子どもたち。運動会が近づくと、「この作品を看板にしようよ」と思いを保育者や友達と伝え合いながら同じ目的に向かっていく楽しさを味わうようになった。

【この時期のねらい】イメージを伝え合いながら、友達と表現する楽しさを味わう。

展開

表現する



「ピンクきれいだから、こっちはピンクっぽい色をたくさん使うね！」
「わたし、『ぬ』が好きなんだー」



「手で塗ってく」「足もやってみよう」
「これもきれいだよ」

目的を共有する



「運動会の看板にしようよ」
「下書きするから、ここ塗って行って」

シンボルとして設置する



「力を全部出して、思い切り走るぞ」
「がんばろうね」

環境の構成

- 保育室でなく異年齢児も活用できる共有スペースを遊び場にする事で、表現することに制約がないと感じられるようにする。
- 広い空間で取り組むことができるようにする。

- 絵の具やクレヨンなどの画材や様々な形の模造紙などがあり、自分たちで選択できる環境をつくる。

- 遊び込むことで満足感が得られるように十分な時間と何枚でも繰り返し楽しめる量を準備する。

- 共有のスペースから保育室に場所を変え、同じ目的に向かう友達と表現できる場を準備する。

- 運動会のメインとなる場や入退場門、自分たちの待機場所など目に入る場に設置する。

先生の関わり

- ・幼児が、もっと絵の具を使って絵を描いてみたいという思いを実現できるようにどんな場がよいのか一緒に考えていく。
- ・のびのびと表現できるようにそれぞれの表現を認めていく。
- ・友達との表現の違いや様々な表現が組み合わせることの面白さに気付いていくように知らせていく。
- ・みんなで集まった時など、各画材の特徴などを伝え合えるように話題にしていく。
- ・完成した作品を掲示したり、発表したりすることで次の製作の意欲につなげていく。
- ・「運動会の看板にしようよ」という幼児の提案を友達に知らせる機会をつくり目的を共有し、同じ目的に向かう力を支える。
- ・目的を共有する姿や役割を分担しながら進めていく姿を認めていく。
- ・異年齢児や保育者が出来栄に感心していることを伝え、幼児が達成感を味わったり誇らしさを感じたりできるようにする。
- ・今回の成功を振り返り、次の意欲につなげていく。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

その後も積極的に絵の具を使い、色の組合せの面白さなどを楽しみ自分らしい表現に自信をもつようになっていった。自分たちで考えたことが他者に認められた経験が主体的に学ぶ姿勢につながったと考える。

【保護者と共有するために】

運動会の際に入退場門や園舎入り口、幼児用テントに設置するなど保護者の目に入る場所に多数設置し、製作過程をドキュメンテーションで共有した。

幼稚園
5歳児(1月)

子ども同士の交流から ～小学校でワクワクチャレンジ～

社会生活との関わり

数量や図形、標識や文字
などへの関心・感覚

小学生から「小学校でやってみたいことは何か」という手紙をもらい、幼児が思い思いの内容を書いて(教師の代筆含む)やりとりをしたことから交流が実現した。小学生が準備した活動を紹介し、幼児が選んで交流したことで、興味のある活動を夢中になって楽しんでいった。小学生と存分に関わることができ、憧れと就学への期待につながった。

【この時期のねらい】小学生との交流を楽しみ、就学することの期待を膨らませる。

展開

保育参観に来た 小学校の先生との交流



「小学校の机に座ってみたいなあ」
「小学校の雲梯とかすごく高いんだよ。
やってみたい」

やってみたいことを選択



「どれにしようかな学校探検に
しようかな」
「ぼくは、ドッジボールしよう」

やってみたいことへの挑戦



「小学校の雲梯高いけど、できるよ」
「もっと色々な遊具にもチャレンジ
したい」



「書ける字もあるけど、難しい字も
あるんだよなあ」
「早くもっと教えてほしい」

環境の構成

○小学校の先生が保育参観に来た際に自己紹介をしたり、質問したりする場をつくる。

○小学生からの手紙を掲示したり、手の取りやすい場所に置き友達との話題になりやすいようにする。

○小学生からの手紙に返事を書きたいという思いを実現する場や十分な時間をつくる。

○小学生の体験活動の紹介で幼児の興味を引きつけられるように全員が見える場所に座れるようにしたり、拡声器やマイク等で聞こえるようにしたりする。

○事前に幼児が参加したい活動を聞き取っておき、一人一人が満足感を得られるように準備する。

○運動遊びにおいては、小学校と連携し、安全面の配慮をし身体的、発達的に無理のない環境を整えておく。

○ひらがなや数字など個人の興味関心に合わせて体験できるように児童の配置を工夫する。

先生の関わり

・小学校の話題を出す中で、「小学校の先生がみんなの素敵な姿を見に来るよ」(保育参観)と伝え幼児の期待感を大切にしていく。

・小学校と保育参観の際の関わりについて事前に打ち合わせをし、幼児が親しみやすい雰囲気をつくっていく。

・小学校の先生との会話や手紙から、小学校の様子についての情報を共有していく。

・幼児が手紙を書きながら小学校でやってみたいことへの期待感に共感していく。

・小学生による活動の紹介を幼児と一緒に参加し、小学校でできる様々な活動への意欲を支えていく。

・それぞれの活動が充実したものになるように必要に応じて援助していく。

・幼児と小学生の交流が十分に図れるように必要に応じて仲介していく。

・幼児の文字や数字について興味や習得の差を理解し楽しみながら体験できるように寄り添っていく。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

小学校での体験により、就学への興味関心が高まり、小学生が付けていた胸章を作るなどして楽しむ姿が見られた。小学生の気分を味わいながら期待を膨らませて生活する様子がかがえた。

【保護者と共有するために】

幼児期の学びが小学校にもつながっていることや、幼児期に培った自信が不安や心配を乗り越える一因になることを知らせたい。

幼稚園
5歳児(2月)

夢中になって遊び込む ～カリン風呂っていい匂い!?～

協同性

健康な心と体

野菜や果物作りに興味があり、2月には干しもの作りをしてミカン風呂などを楽しんでいた。カリンの実を通園路で見つけると、甘い香りに驚き、「食べてみたい」と言って興味をもち始めた。友達とカリンの実を切ったり種をとったりしながら、友達と発見や気付いたことを伝え合っていた。カリンを干しものにしてみたが、食べられないと分かるとお風呂に入れてカリン風呂にしようと思い、友達とお湯運びを繰り返しながらカリン風呂を楽しんだ。

【この時期のねらい】共通の目的に向かって友達と遊びをやり遂げる。

展開

興味・関心・気付き



「カリンって甘い匂いだし、おいしそうだけど、すごく硬くて切れないよ」

試す



「硬くて食べられないから干しものにしてみよう」「いい匂いだからお風呂に入れたらいいかもしれないね」

共通の目的に向かって



「ポリタンク見つけてきたよ」
「みんなで協力してお湯を運ぼう」
「いい匂いするし、気持ちいい！」

環境の構成

○カリンは食べられるかもしれないから切って確かめたい、中身を見てみたいという思いを実現できるようにナイフやトレーなど子どもたちに合うサイズのものを整えておく。

○切れ端や種などを入れる容器を準備し、場を整えながら進めていけるようにする。

○日々少しずつ変化する干しもの様子に目を向けられるように保育室から近い場所や風が抜ける場所を確保し、干しもの変化をクラスの友達にも知らせ情報を共有できる機会をつくっていく。

○安全面を考慮したり心地よさを感じたりできるように気候に合わせたお湯の温度設定を行う。

○お湯がこぼれてしまった時に子どもたちが対応できるように掃除用品の準備をしておく。

先生の関わり

・カリンの果実の香りや手触りに興味をもつ子どもたちの気付きや発見に共感的に関わる。

・子どもたちのやってみたい気持ちや試したい思いに耳を傾け、どのような方法で行うのか一緒に考えていく。

・見た目がリンゴに似ているけど香りが違うことや、甘い香りがするから食べられるのではないかなど、対話的なやりとりを通して、一人一人の気付きや仮説などを膨らませていく。

・子どもの気付きや発見したことに驚いたり感動したりしながら思いを共有していく。

・友達と協力して繰り返してお湯を運ぶ姿など根気強く目的に向かう姿を認めたり励ましたりして支えていく。

・カリン風呂の香りや湯加減、子どもたちなりに感じた効果などを会話の中から引き出し、気付きや発見が周りの友達に伝わるようにする。

【その後の子どもの育ちと小学校とのつながり】

友達と情報を共有しながら主体的に遊びを進め、友達と最後までやり遂げる経験を積み重ねることで、思考力や表現力の基礎をつくり、小学校での主体的な学びへとつながっていくと考える。

【小学校と共有するために】

遊びや活動が、一人一人の思いを友達と交流させることで発展し、幼児期の深い学びや探究的な活動につながっていくことを発信していきたい。

5 歳児の遊びと環境の構成 「やってみたい」の芽が膨らむ環境づくりを

素材や道具が使いたいときに使える環境

遊びや製作で使う素材は、子どもが使いたいときにイメージに合う素材を取り出せるように、種類や大きさ等に分けておきます。多様な素材に触れられる環境を整え、子どものイメージが膨らむようにしています。



材料に合わせて道具を選べる環境

子どもがダンボールにセロハンテープを何枚も重ねて貼ったり、硬いものにハサミで穴を開けようしたりすることがあります。素材や作るものに合わせて適切な道具などを使えるよう、子どもが試せる環境にします。目打ち等も保育者に見守られ、安全な使い方を知っていきます。



安心と挑戦に答える環境

園庭に、高低差がある遊具や整地しない凸凹の環境を作ること、身のこなしや工夫、挑戦など、自分の力を繰り返し何度も試すことができます。自分一人で、友達と一緒に、様々な遊びの中で開放感を抱きながら十分に体を動かす心地よさを味わうことにつながっています。



気付きや発見を生む環境

園内には、花壇やプランター、畑等あることが多いでしょう。子どもたちとコンポストを作り、落ち葉や野菜の端、米ぬか等で有機の土を作ることから始めたいものです。そこには生き物が集まり、命の循環への気付きや様々な発見が生まれます。



自然との関わりを深める環境

様々な草花や木々、丘など、生き物と出会う環境を整えます。子どもたちは生き物や植物に触れ、命の大切さや四季の移ろいを感じ、関心をもって遊びに取り入れて楽しみます。



友達と共に探究心を育む環境

様々な友達と出会うことで、興味や関心、考えが異なることに気付き、新しい考えを生み出していきます。友達と共通の目的に向かって、それぞれが環境に能動的に関わることで協同性が育ち、友達関係が充実し、より深く遊び込むことができ、探究していく面白さに気付きます。



小学校
1年生(4月)

安心して自己発揮する

～1日の学校生活をスムーズにスタートするための環境構成の工夫～

入学したばかりの4月頃は、「学校は楽しい場所」「安心して過ごせる場所」と思えるような、環境構成の工夫が必要である。そこで、スタートカリキュラムを見直し、朝の活動（登校～朝の会前）の時間において、幼児期に大切にしてきた生活リズムに配慮し、児童が学校生活で安心して自己発揮できるよう工夫した。

教室環境の見直し

児童は朝登校してくると、自席でランドセルから荷物を机の中に戻したり、連絡帳を提出したりと朝の支度をやる。机をグループの形にしておくことで、友達の顔や行動を見ながら活動することができるような環境の工夫をした。それにより、今何をやるのか分からない不安や緊張感が和らぐ様子が見られた。また、一緒に活動したりおしゃべりをしたりすることで、友達作りが進んだ。さらに、積み木やリズム遊びなど慣れ親しんできた活動を取り入れることで、幼児期の経験を存分に発揮することができ、児童の安心や楽しさ、自己発揮につながった。



お絵かき
楽しいよ

友達の顔や姿を見ながら朝の支度や活動ができるような机の配置

何をつくっているの？



高くつみたいな

床にシートを敷き、自由に活動できる環境の工夫

踊ったことあるね



この曲知っているよ

皆で身体を動かしてウォーミングアップ (NHKForSchool 視聴)

様々な人との関わり

学級担任以外にも、担任以外の先生や上級生、ボランティアの方などに関わることで、皆に見守られていることを実感できるようになり、安心して活動することができた。

僕は初めてだから、楽しみだな

幼稚園で読んだことあるよ



先生、あのね

6年生による読み聞かせ

聞いて、聞いて

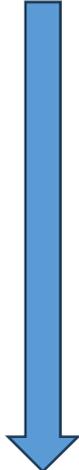
担任との朝の触れ合い



1年生の自立を手助けできるような6年生との関わり



地域や保護者にも広く募ったボランティアによる朝の読み聞かせ



机を前向きに直した朝の会など、徐々に学校生活に馴染めるような工夫

そして学習へ...



自らの思いや願いの実現に向けた活動の実践

合科的な学習により、ゆったりとした時間を確保して行った。春の季節をたっぷり感じられるような環境や、他学年や友達と自然に交流できるような環境の工夫をした。



【生活・体育】2年生に遊具の使い方を聞いてみよう



【図工・国語】つくったものを友達に紹介しよう

友達の姿を見たり、一緒に活動したりすることで、今何をするのかが分かったり、おしゃべりすることで友達ができたりする。友達ができると、安心感、所属感が生まれていった。また、担任以外の先生や上級生と関わることで、皆に見守られていることを実感し、安心して自己発揮することができた。

就学前の経験は小学校生活の基盤になっているため、これからも、小学校教員と保育者で子どもの情報共有だけでなく、就学前の環境を一緒に確認し、それらを4月からの学校生活に生かしていく取組が必要だと感じた。

小学校
1年生(6月)

夢中になって学び込む

～ 生活科学校探検における「知りたい! 伝えたい!」を通して ～

入学して少し経ち、周りへの興味・関心が膨らんでくるこの時期、小学校の環境に触れ、上級生や先生方などとの関わりにも広がりを見せていた。そこで、知っていることや知らないことをクラスで共有しながら、「まだ知らないこと」「行ってみたいところ」をみんなで解決していこうと意欲が高まるようにした。2年生に知りたいことを聞くことができるようになり、自分の思いを伝える場を設定し学校探検を行った。さらに、それによって生まれた「もっと知りたい」という興味・関心を大切に、グループの友達と話し合いながら場所や人に関わり、分かったことを発信するまでの過程を楽しんで学習することができるようにした。

2年生に聞いてみよう!



理科室に行
ってみたい

音楽室はど
こにあるの
かな?

ここが図工室
なんだね!



学校のこと、先生のこと、もっと知りたい!

どんなことを聞いてみようかな?



どんなお仕
事をしてい
るのを知
りたいな

お仕事で使
っているもの
は何だろう?

先生の好きな
ものも知りたいな

いつもどこに
いるんだろう?

インタビューをしてこよう!

校長室には何が
ありますか?

いつも どの
お仕事を
している
のですか?



【校長室】



【職員室】



【職員室】

【生活科】はじめまして がっこう

学校にはどんな場所があるのかなど知っていることを話し合った児童は、2年生に教えてもらう学校探検に期待を膨らませた。2年生に知りたいことを伝え、行ってみたいところへ行ったり、教えてもらったりしたことで、学校をもっと知りたいという気持ちが高まっていった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～

- ・友達と積極的に関わる。(協同性)
- ・新しい環境に興味や関心をもって関わる。(思考力の芽生え)
- ・いろいろな人と親しみをもって関わる。(社会生活との関わり)
- ・してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動する。(道徳性・規範意識の芽生え)

★他教科との関連

【学級活動】「学校生活のきまり」

【生活科】がっこう だいすき

学校には、いろいろな先生がいることが分かり、関わりが増えていったことでどんな仕事をしているのかを知りたいと思う児童が増えてきた。そこで、「もっと学校の先生となかよくなるためにインタビューをしてこよう」というめあてをたて、グループごとにインタビューする先生や聞きたいことを話し合った。話し合いの中で、児童からいろいろな質問が生まれ、インタビューの練習をしながら楽しみにしている様子だった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～

- ・もっと知りたいことを、もう一度調べに行く。(自立心)
- ・してよいことと悪いことが分かり、考えながら行動する。(道徳性・規範意識の芽生え)
- ・学校内にある文字や数字などに関心をもつ。(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)

★他教科との関連

【道徳】「あいさつをすると」

どんなふうに みんなに しょうかいしようかな？



どんなふうに紹介するとい
いかな

使っているも
のはクイズに
したいな



好きなものク
イズのほうが
面白いと思う

どんな順番で
発表したら
いいかな？

ぼくは これを紹介したい！
写真をみんなに見せてあげたいな

【生活科】がっこう だいすき

インタビューでは、事前に話し合った質問をしたり、校長室や職員室、保健室などにあるもので「なんだろう？」と思ったことを教えてもらったりすることができた。児童は、「みんなに知らせたい！」を次々に見つけ、タブレットを使って写真に撮っていた。

グループでのインタビューを終えた児童は、調べたことをどうクラスみんなに知らせるかを話し合った。国語科の「みんなにはなそう」で学習した「クイズ形式」にしてみたり、写真を見せて話したりいろいろな方法を出し合っていた。また、発表の順番を決めて練習をする活発な様子が見られた。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～
・身近な物との関わりから気付いた情報を積極的に取り入れて活用し、楽しみながら伝え合う。
(社会生活との関わり)

★他教科との関連

【国語】「みんなに はなそう」

みんなに伝えよう！



今から、
〇〇先生の
紹介をしま
す



私が見つけた
ものは何でし
よう
〇で始まる言
葉です

お習字の授業をしているそうです

〇〇〇です
か？

【生活科】がっこう だいすき

発表では、自分で決めた方法で一人一つ紹介することにした。インタビュー時にタブレット端末で撮ってきた写真を大型提示装置に映し、友達に伝えるよう工夫して発表していた。

さらに、関連学習である道徳の時間では、学校探検で学習したことを思い出しながら話し合ったことで、学校生活を見守ってくれている人に感謝する思いやそれを伝えたいという気持ちが広まっていった。

～この単元で発揮が予想される

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」～
・相手の話を聞いて理解したり、言葉による伝え合いを楽しんだりする。

(言葉による伝え合い)

★他教科との関連

【道徳】「がっこうにはね・・・」

- ・就学前の児童は、様々な遊びを通して共通の目的に向かって一緒に活動することや、自分の思いや願いを言葉で伝えたり友達の考えを受け入れたりする経験をしている。幼児期に「協同性」や「社会生活への関わり」が培われているからこそ、児童一人一人の「もっと知りたい」が生まれ、友達と話し合いをしながら「もう一回見に行きたい!」「どんな仕事をしているのか知りたいな」「写真を撮る人を決めよう」など問題解決をしていく主体的・対話的な学びにつながったと考えられる。
- ・学校探検をするにあたっての約束やルールも教師が提示するのではなく、楽しく遊ぶ(活動する)ためにはルールがあると楽しく遊べる(活動できる)という児童の経験から必要な約束をみんなで考えることができた。
- ・生活科の学習を中心に児童から出てきた「職員室はどうやって入っていくの」「なんて話したらいいかな」などの疑問や気付きは合科的・関連的に学習することで、これまでの資質・能力が途切れることなく学習に生かされた。

保育所
5歳児(10月)

家庭との連携

～育ちのアルバムを通した保護者とのつながり～

育ちのアルバムを通して、今まで以上に子どもの気持ち分かるようになり、子どもを肯定的に受け止め、一層信頼を置くようになる。それが、子どもにも伝わり、より安心感を抱いたり自己肯定感を高めたりする。子どもの成長を喜び合える関係をつくることができる方法として、毎月一人一人の育ちのアルバムを作成し、保育者、保護者、子どもの三者が、育ちを共有している。



10月
『昆虫ハンターの
目がキラリ』

6歳2か月

【エピソード】

バケツを持って行き交うトンボを目で追ったり、バケツを振りおろします。友達のバケツの中もすかさずチェック。そっとバケツを持ち上げて、トンボをハントできたか、一緒に見守っています。



【スタッフの思い】

秋の醍醐味でもあるトンボがにぎやかに行き交う園庭で、バケツをアイテムに真剣な眼差しでハントの瞬間を狙っていました。多く見かけるのは2匹くっついて飛んでいるトンボ!! おもいぎりバケツを振り下ろした後は、中身を確認するのですが、そのドキドキワクワクの様子が表情からも伝わってきますね。試行錯誤しながらもあきらめずハントの瞬間に期待しながら何度も挑んでいる姿がとても逞しかったです!!

【ここが動いた5つの場面】

- ① 何かに興味を持っている
- ② 夢中になっている
- ③ チャレンジしている
- ④ 気持ちを表現している
- ⑤ 自分の役割を果たしている

【お家の方の思い】

トンボを捕まえるといったら、網か素手…とイメージしがちですが、まさか、バケツでも出来るとは考えもみませんでした。しかも、中身が見えない状態での、そっとバケツを開ける時の瞬間はとってもドキドキしそうです。この方法はよく考えましたね。子どもってすごい。お友達と共有しながら遊びを切磋琢磨し合っているのだな～と思いました。

【その後の保護者とのつながり】

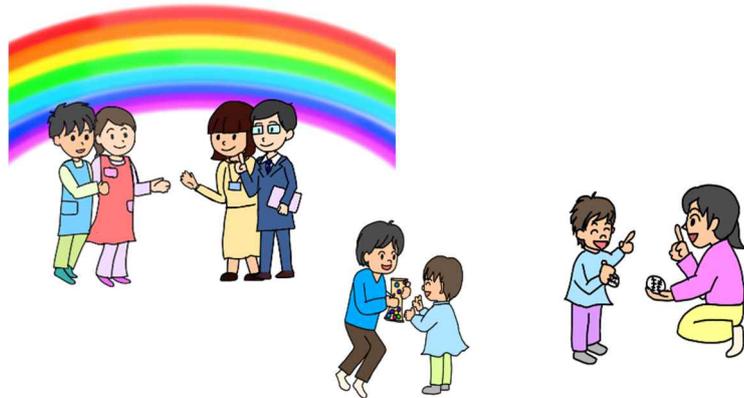
5つの視点を通して子どもの姿を捉えることで保育者の思いが子育てのパートナーである保護者にも伝わり、今まで以上に子どもの気持ちに寄り添い、何かに関心を抱いた理由や行動の背景を共有することで、ともに子育てしている意識が深まる。また、遊びの中での学びが、小学校の学びの基礎となることを伝えていくことで、安心して接続期を過ごす様子が見られた。

【小学校と共有するために】

「ここが動いた5つの場面」に注目し記録したものをもとに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考にし、一人一人の子どもの育ちを支える資料として小学校に引き継いでいる。

フェーズ4

～改善・発展サイクルの定着～



✓	Check! (実施しているものにチェック)	参考
□	【開発会議】方針の改善・発展と支援	
□	フェーズ2～3のPDCAサイクルの定着 持続的に改善・発展できる仕組みづくり (カリキュラム改善に向けた合同会議の定期開催 等)	
□	改善・発展のため、接続する園・小学校で、子どもの学びや生活を具体的にイメージして話し合う場を設定	ワーク 10
□	子どもの実態に応じて、各園・小学校の創意工夫を生かした動的なカリキュラムに	(参考資料) 1年生公開授業 の取組例

★実施のポイント

○最初から 100%完成を目指さず、実践しながら改訂していく

初年度は 50% くらいの完成度でも大丈夫です。そして、次年度も共通の視点で見直しながら改訂していきましょう。

○担当者が変わっても持続的・発展的にカリキュラムの見直しができる体制を

せっかく作ったカリキュラムも、担当者が変わると、実行性のないものになってしまう、ということはありませんか。

前年度に共通理解したことについてしっかり引き継いだ上で、新年度の子どものたちの実態から、見直していくことが大切です。

フェーズ 1～3 のワークの中から選択したり、ワークシートをカスタマイズしたりして、保育者と小学校教員でのワークを繰り返しながら、カリキュラムや実践を改善・発展する過程を大切にしましょう。

多くの保育者・小学校教員・教育委員会関係者、保護者にも、架け橋カリキュラムの考え方について共有し、取組を広げていきましょう。

保育者と小学校教員
(7月8月)

スタートカリキュラムを見直そう ～保育者と小学校教員で一緒に合科的な授業を考えよう～

保育者と小学校教員が一緒に合科的な授業を考えるにあたり、アイスブレイクなどで協議しやすい雰囲気をつくっていく。合科的な授業について考えることを通して、幼児教育と小学校教育の共通理解を図る。幼児教育と小学校教育の違いや互いの教育方法などを理解し合えるように構成する。

準備 小学校一年生の教科書(全教科)、ワークシート

<p>1. アイスブレイク (10分)</p>	<p>○「猛獣狩りゲーム」(人数合わせ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単な歌を楽しみながら、参加者同士が自然と手をつないだり、会話を楽しんだりする。猛獣狩りゲーム自体が合科的な学びであることを知らせていく。 		
<p>2. 合科について共有 (10分)</p>	<p>○「合科的とは何か」「幼児教育とは何か」を示す。 ※参考：小学校学習指導要領(平成29年告示 文部科学省)</p> <p>○グループ協議の流れの説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定したグループに分かれ、合科的な授業の内容及び導入を考える。 ・協議内容をシェアする際には、教師役と児童役に分かれ模擬授業的に行う。 		
<p>3. 架け橋タイム (グループ協議) (30分) (30分)</p>	<p>○合科的な授業について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育と小学校教育のアイデアを盛り込んで柔軟な発想を取り入れていく。 ・導入から自然な流れで授業に入っていけるようにする。 <p>○グループ協議をシェアする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合科的な授業に取り入れる教科やねらいを伝える。 ・導入部分の5分間を模擬授業として発表する。 ・残りの流れを口頭で発表する。 		
<p>4. 振り返り (10分)</p>	<p>○学びの振り返りをし、今後の保幼小の継続した連携の必要性和有効性を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><参加者からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しく取り組むことで、柔軟な思考で取り組めた気がします。 ・小学校の指導法に幼児教育が加わり、アップデートされ有意義に感じた。 </div>		

<進め方のポイント>

- ・アイスブレイクで活動しやすい雰囲気をつくることで、グループ協議を活性化し、合科的な授業についての理解を深める。
- ・合科について理解を深めたことを自園、自校の架け橋カリキュラムの改善に生かしていく。

私たちは「 」と「 」と「 」の
合科的な授業を考えました！

グループ名 _____

○ ねらい

○ 準備物等

○ 授業の流れ

学習内容・活動	気を付けること・配慮点

- ・合科的な指導とは、各教科等のねらいを効果的に実現するため、単元または1コマの時間の中で、複数の教科等の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開する指導方法です。入学当初は、幼児期における遊びを通した総合的な学びを生かし、教科等の学習へ円滑に移行するため、合科的・関連的な指導の工夫が大切です。
- ・協議では、意見を活発に出し合う時間を大切にするため、細かく書かず、発表メモとして活用しましょう。

【参考資料】小学校のスタートカリキュラム公開授業の取組事例

○市町村内でスタートカリキュラムの公開授業（4月）を毎年1校ずつ実施

○参加者：市町村内の保育者・小学校教員・管理職・教育委員会関係者 等

当日は、スタートカリキュラムまでの校内研修等の取組の経緯や当日の授業の参観のポイントについて、教務主任より参観者へ説明をした上で、授業参観を行った。

<前年度からの取組の様子（校内研修）>（教務主任説明資料より）

1 スタートカリキュラムを知ろう

「スタートカリキュラム」とは、**幼児期に遊びを通して育まれた力を生かして、教科などの学習に円滑に接続するための小学校入学当初のカリキュラムのこと**です。実施に当たっては、生活科を中心として**合科的・関連的な指導を行うことや、弾力的な時間設定を行うことについて共通理解を図りました。**

職員をつぶやく
幼稚園では、どんな活動をして、どんな力を育てているのか？

2 幼稚園での取組を知ろう

幼稚園の主幹教諭より幼稚園の取組についての講話

毎日子どもたちとのかかわりの中から**興味・関心のあること**を見出す。

自分たちの思いを実現させるためには**どうすればよいか、考えを出し合い、試行錯誤**できるような言葉かけをする。

自分たちの思いが**実現できた達成感**を共有する。

一人一人の思いを対話から見つけることが大切

職員の気付き
与えるのではなく、自ら学ぶための居場所づくり、場の設定が大切

3 小学校の学習になめらかに接続するためには

幼稚園、保育園の先生と一緒に学習内容を考える

幼稚園や保育園で、子どもたちが**興味・関心があること**（遊び、歌、本など）の情報。

スタートカリキュラムの学習内容を一緒に考える。

小学校入学してからの**学習内容**（国語、算数、生活、音楽、体育）の情報。

一人一人の興味や関心をどのようにして学習につなげていくか。

4 幼稚園・こども園との交流

幼稚園との交流

- 幼稚園生を招待したいね。
- 招待状を作って、何をやりたいか聞いてみよう
- 招待状を届けよう
- 返事を読んで話し合い、準備をしよう
- 学校探検グループ、フラフープグループ、ドッジボールグループ、サーキットグループ、勉強グループなど
- 質問タイム「小学校について聞きたいこと」
- 振り返りをしよう

こども園との交流

- オンラインで交流しましょう
- オンラインで何ができるか話し合おう
- 国語科で学習したクイズを出そう
- 質問タイム
- 「小学校の給食はおいしいですか」
- 「なんの勉強が楽しいですか」
- 「休み時間は何を遊んでいますか」
- 振り返りをしよう

自分たちで話し合い、実践できた達成感を感じ、自信をもつことができた

<当日の授業について・取組による教職員の意識の変化>

5 今日の授業に向けて

朝の活動
・読書、ぬりえ、工作、つみ木、折り紙

朝の活動
・フラフープ、玉入れ、リバーシ、ボールなど

教師と児童の対話の中から学習へつなげる

・折り紙の本を探したい。
・ぬりえのキャラクターの本を探したい。
↓
道徳、国語科の学習へ

・赤い玉と白い玉、どっちが多いかな？
・何点の的に当たったかな。
↓
算数科の学習へ

主体性 達成感 探求心
学びの積み重ねが自己実現につながる

6 教職員の意識の変化

小学校とこ保幼ではカリキュラムが違う

スタートカリキュラムは、1年生担任とこ保幼でやればいい

自分の学びを獲得できる場の設定

児童一人一人に対する言葉かけ

意欲を引き出し、学習につなげる働きかけ

1年生から6年生まで、また他教科にも役立つもので、今後の授業改善につながる。

一人一人への言葉かけが大切だと分かっているつもりでしたが、こ保幼と連携したことによって、見直すことができ、新たな発見ができました。

意識の変化

第1学年1組 国語科「おはなし だいすき」「としょかんへいこう」
道徳 みんなで使うもの「がっこうのものは？」

指導者 教諭
朝の活動支援 生活指導員
読み聞かせ 図書館指導員

本時のポイント 自分の思いを実現させるための話し合いを中心とした活動の工夫

1 本時のねらい

- ◎約束やきまりを守り、みんなが使うもの（場所）を大切に使う心育を育てる。
- 読み聞かせを楽しみ、読書への意欲を高めることができる。
- 自分がやってみたいことに向かってがんばることができる。

2 準備物

折り紙、ぬり絵、色鉛筆、空き箱、積み木、はさみ、のり、セロテープ、絵本、図書室招待状

3 学習の流れ

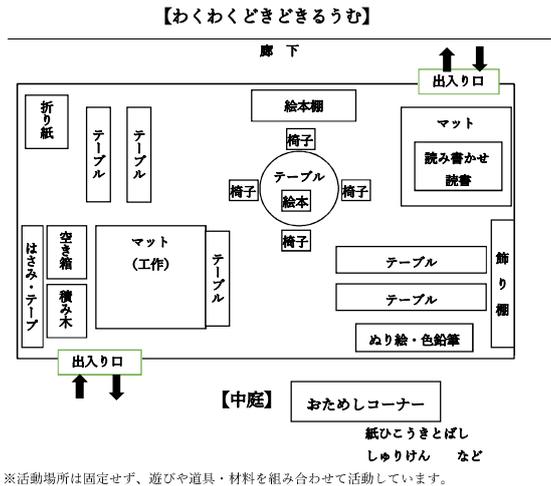
時間	学習内容	教師の働きかけ・指導上の留意点
登校後～	1 朝の活動「なかよしタイム」を行う。 ・読書・読み聞かせ ・ぬり絵 ・折り紙 ・空き箱・積み木 など	・登校後、準備をすませたら担任に健康状態を伝え会議室へ行き、自由に遊ぶ。安全面に配慮する。 ・教室や会議室の黒板に活動の流れを示し、手順が分かるようにしておく。 ・児童の活動を見取り、一人一人のつづやきに適切にフィードバックする。 ・使いたい物が選べるように、材料や教材を置く場所を工夫する。
8:30	2 今月の歌「さんば」を歌う。	・音楽が流れたら片付けを始め、片付けが終わった順に集合する。今月の歌を歌うことで遊びの終わり、授業の始まりの切り替えができるようにする。
8:35	3 朝の遊びについて話し合う。 ・箱を10個積んでタワーにしたよ。 ・「ぐりとぐら」の絵本がおもしろかった。 ・ぬり絵で絵本を作ったよ。	・それぞれどんな楽しい時間を過ごしたのか丁寧に聞き取り、思いを受け止める。 ・話し合いの中から読書活動につながる話題を取り上げ、本時の活動にスムーズに入れるようにする。
8:50	4 本時の活動について知り、話し合う。 「本がいっぱいの部屋」(図書室)にいきたいな。どんな約束があるよいだらう。 ・静かに読もう。 ・図書室の中は走っちゃだめだね。 ・本にやさしくしよう。 ・読み終わったら、もとのところに戻そう。	・自分の考えを話しやすいように、2～3人の少人数グループで意見交換をする。 ・図書室に行ったことのある児童は、その時の経験などから考えるよう声かけをする。 ・話し合いによって約束を確認したり、気付きを促したりできるようにする。

- 9:00 5 図書室の先生に、考えた約束を発表する。
・図書室に入るときは、「失礼します」とあいさつをする。
・静かに読む。
・本を破らないように丁寧に扱う。
- 9:10 6 決めた約束を守りながら、図書室へ行く。
・本がたくさんあってわくわくする。
・早く読みたい。
- 9:20 7 読み聞かせを聞く。
- 9:25 8 振り返りをする。

◎道徳 約束やきまりを守り、みんなが使うもの（場所）を大切に使うとしている。（観察）

◎国語 読み聞かせを楽しむことができる。
主体的に学ぶ力（観察）

4 教室環境（会議室）



※活動場所は固定せず、遊びや道具・材料を組み合わせて活動しています。

第1学年2組 算数科「10までの数」

指導者 教諭
SS (スタディ・サポート)
朝の活動支援 教諭
生活指導員

本時のポイント 自分の思いを実現させるための活動の工夫

1 本時のねらい

- ◎身の回りにあるいろいろなものの個数を数えようとしている。
- 自分がやってみたいことに向かってがんばることができる。

2 準備物

ボール、フラフープ、リバーシ、紅白玉、ケンステップ、CDプレーヤー、カラーコーン、ホワイトボード(小)、用紙、筆記用具

3 学習の流れ

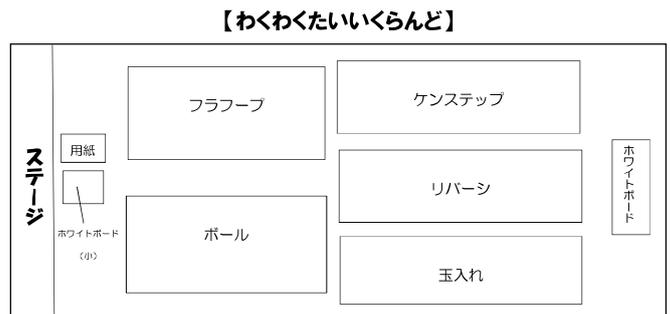
時間	学習内容	教師の働きかけ・指導上の留意点
登校後～	1 朝の活動「なかよしタイム」を行う。 ・ボール、フラフープ、リバーシ、紅白玉、ケンステップ、ダンス	・黒板に活動の流れを示し、登校後、準備をすませたら、担任に健康状態を伝えて、体育館に行く。 ・自由に活動できるように、教室や体育館に手順が分かるようにしておく。 ・体育館にいろいろな場を用意し、体を動かせるように工夫する。安全面に配慮する。 ・児童の活動を見取り、一人一人のつづやきを適切にフィードバックする。
8:25	2 今月の歌「さんば」を歌う。	・音楽が流れたら片付けを終えてから集合し、今月の歌を歌うことで遊びの終わり、授業の始まりの切り替えができるようにする。
8:30	3 朝の遊びについて話し合う。 「たくさんあった」「足りなかった」など児童の思いの中から数につながるものを取り上げ、実際にいろいろなものの数を数えてみたいという意欲へつなげる。	・ホワイトボードや用紙を用意しておき自由に使ってよいことを伝える。 ・忘れないようにしたい児童には、メモしてもよいことを伝える。 ・数を数えたり、何をしてよいかやり方が分からない
8:45	4 本時の活動について知り、数を探す活動をする。 いろいろなもの かずを かぞえよう。 ① 自分の使ったものを数える。	

- ・ボールが8個だった。
・赤い玉は10個あった。
【個人→一斉】
- ② 同じ数のものを探す。
・フラフープとボールの数が同じだった。
・ボールと白玉の数が同じ8個だった。
【個人→一斉】
- ③ いろいろなものの数を比べる。
・リバーシはフラフープより多かった。
・ボールは8個で10人いたら足りなかった。
【一斉】

かったりする児童には、友達と協力してもよいことを伝える。
・具体物を操作してもよいことを伝える。
・片付けの時には、決まった場所に重ねたり、並べたりしておくよう声掛けをする。

◎身の回りにあるいろいろなものの個数を数えようとしている。
主体的に学習に取り組む態度（観察・発言）

4 教室環境（体育館）



※活動場所は固定せず、遊びや道具を組み合わせて自由に活動します。

スタートカリキュラム学習計画（取組例）

		第2日目		第3日目		第4日目		第5日目		第6日目		第7日目		第8日目		第9日目		
朝の時間		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		♡ななかよしタイム (好きな遊びをしてみてください) 朝の会 ①あいさつ②歌③健康観察 ④今日の予定		
1校時	国	♡本を読んでもらおう ♡歌って踊ってなかよくなろう	国	♡本を読んでもらおう ♡歌って踊ってなかよくなろう	国	♡本を読んでもらおう ♡歌って踊ってなかよくなろう	国	♡本を読んでもらおう 給食に関する本を読んでもらう。	国	♡本を読んでもらおう 春に関する本を読んでもらう。	国	♡本を読んでもらおう 道具を選んで遊ぶ本を読んでもらう。	学	♡自分で本を読んでみよう 学級文庫の中から、好きな本を選び読む。	生	♡「校歌」ってなんだろう お兄さん、お姉さんが歌っている歌はなにかな。		
	音	♡あいさつゲーム	学	♡誰と一緒に来たかな？ 登校時の班長の名前を教え合おう。	学	♡自分の大きさ知ってる？ 自分の身長や体重を言ってみよう。	学	♡学校の給食室を探そう 給食室をのぞいてみよう。	生	♡春といえば 春の理想ゲーム	体	♡校庭で遊びたい 校庭にはどんな道具があるか話し合おう。	国	♡鉛筆で書いてみよう どうしたら上手に線が書けるかな。	音	♡「校歌」を教えてもらおう 音楽室で授業をしている3年生に校歌を教えてもらおう。		
2校時	学	♡学校のはてな？ 困ったことを話し合おう。	行	♡通学班集会	学	♡正しく測るためにはどうしたらいいか考えよう。	学	♡体操服に着替えよう 体重や身長を正しく測るために着替えよう。	生	♡給食のひみつをさぐる 給食について、知りたいことや気になることを出して、調理員さんに聞いてみよう。	生	♡学校の春をさがそう 校庭に出て、自分で春だと思えるものを探そう。	道	♡道具の使い方や遊びのルールを話し合おう。	図	♡線のお散歩をしよう 大きな紙に線をたくさん書いてみよう。	音	
	生	♡持ち物の片付け方はどうするのかな 気持ちのよい整理整頓の仕方について話し合おう。	行		学		生		生		体	♡4年生に道具の使い方や遊び方を教わろう	図	♡線のお散歩をしよう 大きな紙に線をたくさん書いてみよう。	音			
3校時	学	♡帰りのしたくをしよう 下校グループを作ろう。	生	♡クラスの友達知ってる？ 友達の名前を言ってみよう。	学	♡どこで発育測定するのかな どんな教室で測るのかな。 約束はあるかな。	生		生		生		体	♡4年生と一緒に道具を使って遊ぼう 体育の授業を行っている4年生に、道具の使い方を教えてくれるように頼み、一緒に遊ぼう。	行	♡地震や火事がおこったら 地震や火事が起こったらどうすればいいか考えよう。	図	♡好きなものなあに 好きなものをたくさんかいて楽しむ。
	学	♡帰りの準備をする。 下校グループで自己紹介をしよう。	国	♡自分の名前を発表しよう 自分の名前をみんなの前で言ってみよう。	学		生		図	♡見つけた春を描こう 自分が見つけた春の絵を紙に描いてみよう。	図		体		行	避難訓練	図	
4校時								国	♡見つけた春を話そう	国		体		算	♡ななかよし 教科書の中から「ななかよし」を見つけてよう。	生	♡みんなのことおしえて 友達の好きなものを聞きたいな	
								学	♡楽しい給食 給食の流れや係の仕事を知ろう。	学	♡楽しい給食 給食の流れや係の仕事覚えよう。	学	♡楽しい給食 給食の流れや係の仕事覚えよう。	算		道	♡わたしのすきなこと 自分のことをみんなに聞いてもらう	
5校時								国	♡給食おいしいね 給食について感想や気づいたことをみんなで話し合おう。	行	♡1年生を迎える会	国	♡楽しかったことをみんなに話そう 道具をつかって遊んだことについて話そう。	国	♡本を読もう 学級文庫から好きな本を選んで読もう。 友達に本を紹介しよう。	国	♡自分の名前を書いてみよう	
								国		行		国		国		国		

♡ななかよしタイム(ピンク)

一人一人が安心感をもち、担任や友達に慣れ、新しい人間関係を気づいていく時間

♡ななかよしタイムは、授業時間以外の教育活動として位置づけたり、各教科等で実施したりする。(各教科等で実施する場合は、その教科等の目標や内容を実現するものである必要がある。)

🌱わくわくタイム(緑)

生活科を中心とした体験的な活動や話し合い活動を通して、各教科等との合科的・関連的な指導の工夫を図り、主体的な学びを作っていく時間

📖ぐんぐんタイム(青)

教科等の学習に徐々に移行し、教科特有の見方、考え方を身に付けていく時間

参考資料の紹介（○資料 ☆動画）

<p>○「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」（幼児教育及び小学校教育関係者向けの参考資料）R 6. 4 文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html</p>	
<p>☆「遊びは学び 学びは遊び “やってみたいが学びの芽” ～『やってみたい』から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、学びに向かう力）の育成～」R 6. 4 文部科学省動画チャンネル https://www.youtube.com/watch?v=UxfAl3XWfGo</p>	
<p>○☆「幼保小の架け橋プログラム」文部科学省 HP 「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」R 4 「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料（初版）」R 4 説明動画 「幼保小の架け橋プログラム事業」採択自治体の取組 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019_00002.htm</p>	
<p>○「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム スタートカリキュラム導入・実践の手引き」H30. 3 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター編著 https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/startcurriculum_180322.pdf</p>	
<p>○☆幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）R5. 12 こども家庭庁 HP https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi</p>	
<p>○「保育所123」厚生労働省 HP https://www.mhlw.go.jp/hoikusyo123/index.html</p>	
<p>○「一人一人のよさを 未来へつなぐー学校教育のはじまりとしての幼稚園教育ー」文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1422302.htm</p>	
<p>○「未来をつくり出す力の基礎を培うために 幼保連携型認定こども園ってどんなところ？」こども家庭庁 HP https://www.cfa.go.jp/policies/kokoseido/kodomoen/gaiyou</p>	
<p>○「幼児一人一人が未来の創り手にー幼児教育 Q&Aー」 文部科学省委託事業幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（R 元） 一般社団法人保育教諭養成課程研究会（協力：全国国立幼稚園・こども園長会） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1405077_00001.htm</p>	
<p>○「茨城の幼児教育」（義務教育課）県教育委員会 HP https://kyoiku.pref.ibaraki.jp/gakko/early-childhood-education/pdf/</p>	
<p>○☆ポータルサイト「家庭教育応援ナビ」 https://www.edu.pref.ibaraki.jp/katei/ ○「家庭教育支援資料」→「子育てアドバイスブック ひよこ/クローバー」 ○☆「子育てに役立つマンガ・動画・資料」 ○☆「研修教材・資料」→「就学前教育」 →茨城県保幼小接続カリキュラム（H30. 3） →保幼小連携・接続の実践事例（R 4、5 ※R 6は12月未追加予定）</p>	
<p>（各要領・指針名で検索・閲覧可） ○保育所保育指針解説 ○幼稚園教育要領解説 ○幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ○小学校学習指導要領解説</p>	

「架け橋カリキュラム作成ガイドブック」に寄せて

「架け橋カリキュラム」は、幼児教育と小学校教育の接続を円滑にし、連携を強化するための取組として、現在各自治体で作成が進められています。これまで、接続期のカリキュラムとして、幼児教育ではアプローチカリキュラム、小学校ではスタートカリキュラムを作成し、双方の教育をつなげてきました。「架け橋カリキュラム」は、それらをさらに発展させ、幼児教育の先生と小学校教育の先生が協力し合い、「架け橋期」とされる重要な2年間のカリキュラムを一体的に捉え、共同で作成しようとするものです。この共同作業を通じて、互いの教育方法に対する理解を深め、従来の教育を見直し改善していくことが期待されています。

本資料は、各自治体や学区で架け橋カリキュラムを作成する際のガイドとして、実態に応じた具体的な取り組み例（ワークショップや事例）を示しています。「フェーズ1～基盤作り～」では、互いの教育について理解することから始めます。子ども同士の交流や保育参観、授業参観を通じて、互いの教育理念や方法について理解を深めることが求められます。「フェーズ2～検討・開発～」では、いくつかのワークショップを通じて得られた情報や意見を基に、段階的にカリキュラムを整えていきます。例えば、「育んでいきたい子どもの姿」を共通理解し、具体的な事例を基に「遊びや学びのプロセス・環境の構成・先生の関わり」や「一人一人の子どもに応じた具体的な支援」をカリキュラムに反映させます。このプロセスを通じて、互いの教育への理解がさらに深まることが期待されます。「フェーズ3～実施・検証～」では、実際の教育活動の事例を収集し、これまで作成してきたカリキュラムを見直し、検証します。「フェーズ4～改善・発展サイクルの定着～」では、PDCAサイクルを確立し、継続可能な研修となっているかを確認し、さらなる深化を図る工夫が求められます。

地域によって進捗状況や実態はさまざまです。そのため、どこから始めるか、どこに重点を置いて進めるかは各自治体や学区ごとに異なります。また、最初から完璧なカリキュラムを作成しようとすることは現実的ではありません。むしろ、幼児教育と小学校教育の先生が地域の子どもたちの成長について共通理解を深め、協力しながら、徐々に整えていくという姿勢が重要です。途中でメンバーが変わることもありますので、各フェーズを繰り返したり行きつ戻りつしたりしながら発展させていくことが必要です。架け橋カリキュラムは他の教育課程と同様、完成することはなく、常に見直し、改善、発展していかなければなりません。そのための持続可能な仕組みづくりも求められています。

このガイドが、各自治体や学区での架け橋カリキュラム作成の参考となり、活発な議論と取り組みが進むことを願っています。

茨城大学教育学部 教授 神永 直美



(令和6年度茨城県架け橋カリキュラム検討会委員)

神永 直美	茨城大学教育学部教授
宗次 直巳	常磐短期大学幼児教育保育学科助教
立石 友美	ひたちなか市教育委員会指導課主任兼幼児教育アドバイザー
阿部 彩子	茨城町教育委員会学校教育課指導主事
高野 恵美子	笠間市立岩間第一小学校教諭
安齊 友里	日立市立河原子小学校教諭
根本 和典	東海村立村松幼稚園主幹教諭
大藪 友希	学校法人中山学院渡里幼稚園認定こども園わたり主幹教諭
平野 由起子	社会福祉法人栄寿会わかな保育園保育士
小貫 佳子	社会福祉法人栄寿会わかな保育園学童副館長・保育士
半田 彩子	茨城県立内原特別支援学校教諭

(イラスト) ワーク4・9のイラストを除く

半田 彩子	茨城県立内原特別支援学校教諭
-------	----------------

(資料提供)

ひたちなか市立三反田小学校
潮来市立延方小学校
東海村立村松小学校
茨城県教育庁学校教育部義務教育課（「茨城の幼児教育」より）

(編集)

和田 秀彦	茨城県教育庁総務企画部生涯学習課就学前教育・家庭教育推進室長
高橋 直之	同室長補佐
中庭 朋子	同指導主事
鈴木 睦	同主査

※所属先や職名については、資料作成時のものです。